

会 報

No.57 (1997年5月)

目 次

◆新会長あいさつ	1
◆第9期・第10期 第1回合同評議員会報告	2
◆新役員名簿	2
◆第9期 評議員会将来計画委員会報告	3
◆1996年度会計収支決算報告	4
◆1996年度会計監査報告	5
◆第20回 (1997年) 日本分子生物学会年会のお知らせ (その3)	6
◆学会費 (年会費) 納入についてのお願い	32
◆日本分子生物学会への入会申込みの手順	32
◆学術賞、研究助成の本学会推薦について	33
○ファルマシアバイオテック分子生物学若手研究者奨学会	
○持田記念医学薬学振興財団	
第15回 研究助成金、第14回 国内および海外留学補助金	
○第14回 持田記念学術賞	
○第14回 井上学術賞	
○第29回 内藤記念海外学者招へい助成金の推薦	
○第29回 内藤記念科学振興賞受賞候補者の推薦	
◆各種シンポジウム、講習会のお知らせ	38
○千里ライフサイエンス技術講習会 第11回	
「等電点差異に基づくタンパク質分離方法」	
○千里ライフサイエンスセミナー「細胞の老化と不死化」	
○第17回 札幌がんセミナー国際シンポジウム	
○第12回 生体成分の分析化学シンポジウム	
○International Cyber Congress on Analytical BioSciences 1997	
○第70回 日本生化学会大会	
○第2回 構造生物学シンポジウム	
○第13回 東京都神経研国際シンポジウム	
○第6回 日本バイオイメージング学会学術集会	
○第7回 アンチセンスシンポジウム	
◆GENES TO CELLS 既刊号 Table of Contents	43
◆雑誌 GENES TO CELLS 第2巻の購読のご案内	47

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆新会長あいさつ

1979年に会員約600人で発足した日本分子生物学会は現在会員数8,525名（3月10日現在）に達しています。またここ数年、毎年10%程度の会員数の増加がみられ、順調に発展していると思われます。特に、学生会員（約2,500名）など年齢の若い方々の会員が多いことが本学会の特色であり、分子生物学という新しい学問分野を反映しているとみられます。この様な一見順調にみえる日本分子生物学会ですが、以下に述べるようないくつかの問題に直面しており、それらをどのようにして解決していくかが第10期の会長としての私の役目であると痛感しています。

まず、一昨年に科学技術基本法が成立し、また行政改革にもなって近い将来わが国における科学技術に関する諸条件が著しく変化すると予想されます。その中であって、基礎生物学、医学、薬学、農学などバイオサイエンス諸分野の基礎としての分子生物学がこれから先も常に先端的であるために、いかにしてこのような急激な科学政策の変化と行政改革に対応していかなければならないか、という大きな課題を突きつけられているといえます。いうまでもないことですが、どのサイエンスでも幅広いかつ確固たる基礎の上においてのみ真の発展がある以上、いくつかの突出した分子生物学の研究と同時に日本全体における分子生物学がバランスよくかつ幅広く発展することが重要で、これを関係諸機関に強く訴えていかななくてはならないと思います。

一方、日本分子生物学会自体についてもいくつかの問題が顕在化しつつあります。まず第一に、学会のマンモス化にともなう問題です。最近の日本分子生物学会は大きくなりすぎて緊密性が失われつつあり、年会においても十分な議論と情報の交換がなされなくなってきたという声が良く聞かれます。これは日本分子生物学会ではなくほとんどすべての大きな学会についての問題でもあります。日本分子生物学会が日本における従来の既存の学問領域を越え、横断的かつ権威、形式にこだわらない実質的な情報の発表および交換の場であったからこそここまで発展してきたことを考えると、現在の学会の巨大化とその弊害を深刻に受けとめねばならないと思います。いかにしてマンモス化にともなう形式的になりがちな学会組織から脱却するかについてわれわれも努力するつもりですが、会員皆さまの意見やアイデアがあれば、ぜひお寄せいただければと思います。同時にバイオサイエンスが細分化、専門化していく現在、分子生物学がそれらの専門分野の共通のテクノロジーとしてしか存在意義がないという批判に対しても、われわれも十分に対応せねばならないと思います。

次に、日本分子生物学会が後援して日本から発行する初めての国際的な分子生物学の専門誌「GENES TO CELLS」を世界の一流誌としてどのように発展させていくかについてお願いがあります。「GENES TO CELLS」の発刊の趣旨についてはすでに明らかにされていますが、富沢純一編集長の努力によって一応順調な滑り出しをみました。しかしながら、「GENES TO CELLS」を真の世界的な国際誌たるためには現在の状態を更に一層改善していかななくてはなりません。特に、刊行部数および投稿原稿の更なる増加など会員諸氏の絶大なる支援が今後ますます重要になるとわれ、そのためのいくつかの企画を現在検討中ですので、ぜひご協力をお願いする次第です。

以上、日本分子生物学会をめぐる問題の中でもっとも緊急かつ重要と思われる2、3の点について述べましたが、バイオサイエンスにおける分子生物学の中心的役割を考えると、私は日本分子生物学会の将来について依然として大いなる希望と期待もっています。ただ、ゲノム計画など組織化されたシステムを必要とする新しいバイオサイエンスを包含しつつ急速に変化、発展している世界のバイオサイエンスの動向および日本における科学技術政策の劇的な変化をみる時に、われわれ一人一人が既存のいわゆる学会の権威とは無関係であり、自由な発想に基づいて、究極的にはわが国の分子生物学者の研究の発展を目的とする本学会の持つ意義と役割の正当性をここで再確認し、深く心に銘じることがきわめて重要であると考えております。きわめて実務的であり、かつ日本の学会においてユニークな地位を占める本学会の更なる発展のために、会員諸氏のこれまで以上の協力と率直な意見を期待する次第です。

大石 道夫

◆日本分子生物学会 第9期・第10期 第1回合同評議員会報告

日 時：1997年4月3日（木）12：00～16：00

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル 20階会議室

出席者：第10期

饗場弘二*、石浜 明、岩淵雅樹、大石道夫*、大塚栄子、小川英行*、近藤寿人、榊 佳之*、品川日出夫*、杉野明雄、辻本賀英、長田重一、中西重忠*、花岡文雄、松原謙一*、三浦謹一郎*、村松正実*、吉川 寛（*第9期より）

[欠席者；谷口維紹、柳田充弘]

第9期

小川智子、杉浦昌弘、関口睦夫、山本正幸（評議員）、大久保公策（会計幹事）

オブザーバー

清水 章、生田宏一（第20回年会担当者）

議 事：

1. 松原会長より、第9期の日本分子生物学会の活動の要点について報告がなされた。GENES TO CELLS の刊行の報告、学会規模の拡大や日本生化学会など他学会との関係などの現状と問題点の指摘がなされ、また科学技術基本法、大学院重点化、職員任期制導入などへの対処が今後の課題として提起された。
2. 山本将来計画委員長より将来計画委員会の活動について報告がなされ、今後への提案がなされた（別掲：将来計画委員会報告）。また、評議員より意見が追加され、それを第10期の将来計画委員会の活動に反映させることとした。
3. 吉川編集幹事より GENES TO CELLS の刊行の現状が報告され、国内外での購読数の増加が今後の最大の課題であることが指摘された。また、各評議員からいくつかの具体的な提案がなされた。
4. 近藤庶務幹事より、第9期の実施業務が報告された。また、選考委員会の庶務幹事からの独立など、庶務業務の分割が提案され、第10期はその提案を考慮にいれて委員を選任することになった。
5. 大久保会計幹事より、1996年度会計収支決算報告がなされた（別掲：会計収支決算報告）。
6. 第10期評議員の互選により、第10期会長に大石道夫氏を選出した。
7. 第10期副議長に石浜明氏を選出し、また会計監査に大久保公策、池田日出男氏を選んだ。幹事、委員長の選任は会長に一任された（別掲：新役員名簿）。
8. 第20回日本分子生物学会年会について清水章氏（本庶年会長代理）より準備状況が報告された。抄録のCD-ROM化にともなって、演題申込や講演要旨の閲覧について新しい方法が導入されることが説明された。
9. 第21回年会について、1998年12月16日（水）より12月19日（土）までの会期でパシフィコ横浜で開催される予定であるとの吉田光昭年会長からの報告が紹介された。

◆新役員名簿

会 長

大石 道夫（工業技術院生命工学工業技術研究所）

評議員（50音順）

饗場 弘二（名大・理）

石浜 明（国立遺伝研）

岩淵 雅樹（京大・理）

大石 道夫（工技院）

大塚 栄子（北大・薬）

小川 英行（阪大・理）

近藤 寿人（阪大・細生工セ）

榊 佳之（東大・医科研）

品川日出夫 (阪大・微研)	杉野 明雄 (阪大・微研)
谷口 維紹 (東大・医)	辻本 賀英 (阪大・医)
長田 重一 (阪大・医)	中西 重忠 (京大・医)
松原 謙一 (奈良先端大・バイオ)	三浦謹一郎 (学習院大)
村松 正実 (埼玉医大・医)	柳田 充弘 (京大・理)
吉川 寛 (奈良先端大・バイオ)	

各幹事

庶務幹事	丹羽 修身 (かずさ DNA 研)
編集幹事	山本 正幸 (東大・理)
会計幹事	花岡 文雄 (阪大・細生工セ)
集会幹事	清水 章 (京大・医)、勝木 元也 (東大・医科研)
会計監査	大久保公策 (阪大・細生工セ)、池田日出男 (東大・医科研)
将来計画委員	杉野 明雄 (阪大・微研、委員長)、新井 賢一 (東大・医科研)、 押村 光雄 (鳥取大・医)、秋山 徹 (阪大・微研)、 石浜 明 (国立遺伝研)、吉川 寛 (奈良先端大・バイオ)
選考委員	饗場 弘二 (名大・理、委員長)、岩淵 雅樹 (京大・理)、小川 英行 (阪大・理)、 近藤 寿人 (阪大・細生工セ)、榎 佳之 (東大・医科研)

◆日本分子生物学会 第9期 評議員会 将来計画委員会報告

今日の分子生物学がおかれた時代背景の中で、新しい学問の創成に資するための学会運営はどのようにあるべきかを検討する目的で本委員会は設置された。第8期(石浜委員長)より引き継いだ問題提起は以下のものであった。

1. 分子生物学の研究環境、特に研究組織の現状と改革の方向
2. 分子生物学の研究環境、特に研究費の状況と改革の方向
3. 分子生物学の国際協力
4. 分子生物学の教育、特に論理性を高めるための教育改革
5. 日本分子生物学会の運営をめぐる問題

また、以下のような事業の提案を受け継いだ。

1. わが国にも本格的なポストドクトラル制度を導入する。
2. 新たな研究分野の創出のために、研究対象生物を軸とした講習会を開催する。
3. 学会を横断する研究討論会を開催する。
4. 年会を最重要の研究交流の場とし、新たな運営方式を導入する。
5. 研究成果発表方法改革の一環として、“GENES TO CELLS” 発刊へ協力する。

上記の問題提起はどれも極めて正当なものであるが、それら全てに正面切って取り組むことは実質的に不可能であるため、今期の委員会では手の付けられる問題からひとつずつ取り組むという姿勢を保ってきた。その結果、具体的な活動としてまとまりをみたのは次の2点であった。

1. 博士研究員制度の充実の要望の提起

分子生物学の研究環境改善の一環として、わが国における博士研究員制度の充実を要望する声明をまとめ、1995年10月に松原会長名で文部省を始めとする関係省庁、日本学術会議、関連学会、学術審議会委員等に送付した。この要望は、三省庁の若手研究者1万人支援計画と軌を一にする時宜を得たものとなり、分子生物学分野ではDCよりPDの充実が望まれていることなど、学会の主張を浸透させるのに役立ったと考えられる。

2. 講習会の支援事業

新たな研究分野を切り開くための試みの1つとして、桂委員を中心に線虫分野の講習会が企画され、会場については国立遺伝研の支援を受けて、1996年7月に実施された。1週間の会であったが、講習生（15名）からは高い評価を受けた。参加希望者全員を受け入れることができなかったため、本年夏にも同様の講習会を大島靖美氏（九大）のお世話で企画している。また、やはり支援事業の一環として日本学術会議の分子生物学研連、生物物理学研連および分子レベルの構造生物学振興小委員会の3者が主催する「構造生物学フォーラム」に対し、学会が共催者として援助を行った。

総括と提案：

第8期の委員会から受け継いだ問題提起はどれも重要であり、長期的に検討していく必要がある。特に研究費については、大型予算の創設を含めたここ数年の総額の伸びには評価すべきものがあるが、一方その配分方法の不合理さについては批判が噴出している現状がある。この問題に対し、学会として何らかの態度表明が必要かも知れない。また、博士研究員制度の充実が動き出した陰で、省庁ごとの待遇の差に起因する混乱や、大学院生間の生活保証の格差の増大、アカデミズムに対する失望などの問題がじわじわと広がっているように思われる。若い人を引きつける学問とそれを支える教育体制（生活保証をも含めた）をどう構築していくか、真剣に考える時が来ているように思われる。来期も評議員会のもとに将来計画委員会が置かれ、これらの問題に取り組まれることを期待する。

将来計画委員会

(山本正幸、石浜 明、桂 勲、町田泰則、山本 雅、吉川 寛)[文責・山本正幸]

◆1996年度会計収支決算報告

1996年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

(第9期会計幹事 大久保公策)

1996年度日本分子生物学会収支決算報告書

(1996年4月1日 ~ 1997年3月31日)

収入の部

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
学 会 費	28,360,000	30,917,375	正会員会費 24,074,500円
賛 助 会 費	1,380,000	1,320,000	学生会員会費 5,521,000円
広 告 収 入	1,500,000	1,759,500	海外会員会費 405,875円
預 金 利 子	300,000	68,489	入会金 916,000円
雑 収 入	50,000	138,492	
会員調査引当金戻入	0	1,400,000	
収 入 小 計	31,590,000	35,603,856	
前年度繰越金	2,000,000	7,046,809	
合 計	33,590,000	42,650,665	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
事 業 費	10,200,000	9,827,345	
会報発行	2,200,000	1,713,732	第19回年会 " 講習会補助金他
年会プログラム	1,800,000	1,998,184	
年会特別講演謝金	200,000	200,000	
第20回年会補助	1,000,000	1,000,000	
国際誌発行支援金	4,000,000	4,000,000	
その他	1,000,000	915,429	
評 議 委 員 会 費	3,800,000	4,101,199	
委員会費	800,000	65,605	
選挙・名簿作成費	3,000,000	4,035,594	
業 務 委 託 費	8,000,000	8,980,714	
一 般 事 務 費	9,360,000	9,879,410	
用品費	10,000	690	プログラム、会報、名簿等郵送料
印刷費	300,000	215,820	
通信費	8,300,000	8,769,821	
庶務事務費	650,000	650,000	
雑費	100,000	243,079	
会 員 調 査 費	0	1,384,656	FAX、Eメール調査
予 備 費	1,000,000	1,129,780	うち100万円は第20回年会補助
支 出 小 計	32,360,000	35,303,104	
次年度繰越金	1,230,000	7,347,561	
合 計	33,590,000	42,650,665	

◆ 1996年度会計監査報告

1996年3月28日、会計帳簿、預金通帳、領収書、日本学会事務センター出納記録などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第9期会計監査

杉野明雄 ㊟

釣本敏樹 ㊟

第20回（1997年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その3）

第20回年会は、1997年12月16日（火）から19日（金）まで、京都市の国立京都国際会館および京都宝ヶ池プリンスホテルにて開催されます。

今年度の日本分子生物学会年会では、昨年の合同学会での試みである抄録のデジタル化を一層すすめ、抄録をCD-ROMで発行しようと計画しております。抄録のデジタル化とその保存、そして容易に検索をできるようにすることは、今後の学会発展のためにも重要なことであると考え、この計画をすすめております。

ここで問題となってきたのが、学術記号や特殊文字の処理であり、そのため以下のような方法をとりました。

- 1) 使用機種は、本学会に演題を提出される可能性のある方々の多くがMacintosh対応可能者であると判断し、Macintoshをスタンダードといたしました。
しかしながら、Windows形式およびテキスト形式での提出にも対応させていただきます。
- 2) 提出用に専用フォーマットを作成し、本学会誌に添付しております。
このフォーマットは、あるベンダーに、無償で協力いただいております、学術記号や特殊文字の処理に有効であるとの判断から、利用しております。

以上、現時点でデジタル化をすすめるために、最良と思われる方法を選択したつもりであり、先生方のご理解をいただければ幸いです。

第20回日本分子生物学会年会
年会長 本庶 佑

今回の年会は、ポスターによる一般演題、ワークショップ、シンポジウム、テクニカルセミナー、異分野セミナーで構成されます。内容（概略）および応募方法については以下のとおりです。

一般演題

会報No.56号でお知らせしましたように、一般演題は、すべてポスターで行います。後記の「一般演題発表申込方法」の要領に従い、お申込みください。今回は、初めての試みとして、抄録をCD-ROMで発行します。演題の申込み方法が従来と異なりますので、充分にご注意ください。

一般演題（ポスター）発表は、4日間で、約2,500題を予定しています。ポスターのスペースは高さ180cm×幅90cmを予定しています。

展示時間は、以下の通りです。

第1・2・3日目	設営	8:00～9:00
	展示	9:00～18:00
	撤去	18:00～18:30
第4日目	設営	8:00～9:00
	展示	9:00～17:00
	撤去	17:00～17:30

第1・2・3日目のコアタイムは9時～11時30分です。奇数番号のポスターの発表者は9時～10時15分の間、偶数番号のポスターの発表者は10時15分～11時30分の間、ポスターの前に立ち、質問・討論に備えてください。

第4日目のコアタイムは12時～14時です。奇数番号のポスターの発表者は12時～13時の間、偶数番号

のポスターの発表者は13時～14時の間、ポスターの前に立ち、質問・討論に備えてください。
ワークショップでの口頭発表を依頼された一般演題の方もポスター発表をお願いいたします。

ワークショップ

ワークショップは、一般公募と委員推薦の中から、プログラム委員会が32テーマを選定しました。8会場を同時に使用し、第1、2、3日目は15:30～18:00、4日目は14:00～17:00に行う予定です。ポスター発表の中から、各ワークショップあたり数題の口頭発表をお願いする予定です。

シンポジウム

プログラム委員会で、外国からの招待講演者を含む3人前後の演者からなる12のシンポジウムを別表のように企画いたしました。3会場を同時に使い、3つのシンポジウムのみが同時進行する形をとります。第1、2、3日目は12:00～14:30、4日目は9:00～11:30に行う予定です。

テクニカルセミナー

3会場を同時に使い、3つのセミナーが同時進行する形をとります。第1、2、3日目は9:00～11:00、4日目は12:30～13:30に行う予定です。

異分野セミナー

2会場を同時に使い、第1、2、3日目の10:00～11:00に行う予定です。

一般演題発表申込方法

1. 代表発表者（演題発表をされる方）として応募できるのは、本年度学会費（日本分子生物学会会費のことで、第20回年会参加費ではありません）既納の本学会員に限られます。また、代表発表者は、必ず事前登録をお願いします。演題申込と一緒に本年度学会費と事前登録の年会参加費の払込票兼受領証をコピーして同封ください。また、代表発表者になれる発表は一人一題とします。ただし、他の発表の連名者になることは差し支えありません。
2. 発表申込締切日 1997年7月31日必着
3. 申込書類送付先 〒606 京都市左京区吉田河原町14
（財）近畿地方発明センター内（株）コングレ京都支店内
第20回日本分子生物学会年会事務局
Tel. : 075-752-0888 Fax : 075-762-2304
E-mail: bunshi@congre.co.jp
4. 一般演題発表申込用のフォーム（発表申込用フォーム、講演要旨入力用フォーム）は同封のCD-ROMの中にあります。また、各々のサンプル、演題申込受取書、発表演題採否通知書は会報に綴じ込んであります。以下の要領にしたがって、これらに必要な事項を入力の上、簡易書留で上記申込書類送付先（第20回日本分子生物学会年会事務局）までお送りください。
5. 発表の代表者の本年度学会費納入を確認するために、所定の用紙に、学会費払込の際に郵便局等が発行する受領証のコピーを貼付してください。
なお、入会手続き中の方や、受領証を紛失された方は同欄にその旨を記入してください。また、入会申込みをされる方には、入会申込書と会員カードを提出された後に、日本学会事務センター（東京）より学会費の請求書が送付されますのでご注意ください。学会費未納の場合には、発表申込を受理できませんのでご注意ください。

日本分子生物学会への入会に関するお問い合わせにつきましては、以下にお願いいたします。第20回年会事務局ではお取り扱いしておりません。

＜入会に関するお問い合わせ先＞
〒113東京都文京区本駒込5-16-9
財団法人日本学会事務センター
Tel. : 03-5814-5810 Fax : 03-5814-5825

6. 一般演題発表申込用のフォーム入力上の注意 (A. Macintoshで入力する場合, B. Windows形式で入力する場合, C. Text形式で入力する場合)

*CD-ROMを使用できない方は、Text形式(C.を参照ください)の入力と同じ方法で入力願います。
**提出用のフロッピーディスクは各自でご用意ください。

A. Macintoshで入力する場合

- 1) まず、CD-ROMより、ご使用のMacintoshのハードディスクに以下のものをコピーしてください。

① 「Quark XPress J Demo Mac」フォルダ

主な内容物

- ・ Quark XPress 3.3 Demo…アプリケーションファイル
- ・ XPress Help…オンラインヘルプ
- ・ QXP 3.3 リリースノート …最新情報

② 発表申込用フォーム

③ 講演要旨入力用フォーム

各フォームはQuark XPress 3.3 Demoを使用して編集していただきます。

OSは漢字Talk 7.1以上に対応しております。

- 2) 発表申込用、講演要旨入力用の各フォームのファイルを開き、表示されたフォームに、以下の説明にそって必要事項を入力してください。

① 事務局よりお送りする専用の入力フォームをお使いください。

フォームはMacintosh専用です。Macintoshを使用して入力願います。

入力方法については以下の2通りがあります。

- ・ フォームをダブルクリックして開き、直接文字を入力する。
 - ・ 直接入力する代わりに他のワープロやテキストエディタ等で文書テキストを作成後、フォームにコピー&ペーストする。
- その際に文字の修正が必要な場合があります。

② 発表申込用フォーム

文字を入力すると自動的にあらかじめ設定された文字(数字)のサイズ・フォントになります。漢字・かなのフォント(書体)は、細明朝体を使用してください。欧文・数字のフォントはTimesを使用してください。

記号等はSymbolフォントをご使用ください。

上記のフォント以外(New YorkやChicagoなど)は、使用しないでください。

このフォームには、「演題名」「キーワード」とともに、代表発表者1名の氏名、所属、住所、電話番号、Fax番号を記入してください。

また共同発表者欄には、連名の方全てについて1枠に1名ずつ記入してください。

なお、外国人の方は、カタカナ表記を避け、アルファベットでファミリーネーム、ファーストネーム、ミドルネーム(イニシャル)の順で記入してください。

また、大文字と小文字についても明瞭に使い分けてください。

③ 講演要旨入力用フォーム

文字(数字)を入力する際には、自動的にあらかじめ設定された書体およびサイズにな

ります。それ以外で、入力される場合は、
文字（数字）は、9ポイント以上を使用してください。
また、行送り（行間）は13ポイント以上に設定してください。
漢字・かなのフォント（書体）は、細明朝体を使用してください。
欧文・数字のフォントはTimesを使用してください。
記号等はSymbolフォントをご使用ください。

上記のフォント以外（New YorkやChicagoなど）は、使用しないでください。

■特殊文字、イタリック体（数字）、上付、下付文字（数字）の入力方法

- ・記号など特殊文字の入力時にSymbolフォントをご使用いただく場合、アプリケーション（Quark XPressデモ版）上で「スタイル」メニューをプルダウンし、「フォント」からSymbolフォントを指定することで入力することができます。
 - ・外字については基本的に受け付けることはできません。どうしても必要な場合はご相談ください。
 - ・イタリック体、上付・下付文字は、該当する文字をマウスで選択した後、「スタイル」メニューをプルダウンし、「文字飾り」からそれぞれを指定することにより設定することができます。ただし、漢字・かなにはボールド（太字）は使用しないでください。
 - ・アプリケーション（Quark XPressデモ版）の詳しい使用方法については、「Quark XPress J Demo Mac」フォルダ内にあるオンラインヘルプファイル「XPress Help」をご参照ください。
 - ・代表発表者は、アブストラクトの筆者に下線をひいてください。
所属は略称を用いてください。
なお、外国の所属は国名（フォントはTimes）を明記してください。
 - ・演題、発表者氏名、所属を日本語と英語で並記してください。それぞれの項目内部ではリターンキーによる改行をしないでください。
 - ・ポスター発表の要旨は、日本語、英語のどちらでも結構です。
講演要旨集に印刷される際の縮小率は約58%ですので、図や表のサイズにご注意ください。なお、CD-ROM版についてはコンピュータの画面上での拡大表示が可能になります。
 - ・ポスター発表分類を必ずご記入ください。
また、ワークショップに採用された場合の希望のワークショップNO.をご記入ください。
本年度も研究内容中心の分類を採用いたします。
- ④ 専用フォームの入力に関するお問い合わせは、Faxにて下記の連絡先までお願いいたします。

<お問い合わせ先>

Fax: 075-325-3135

なお、お電話によるお問い合わせには応じることはできませんので、あらかじめご了承ください。

- 3) 必要事項を入力済みの一般演題発表申込用のフォーム（発表申込用フォーム、講演要旨入力用フォーム）は、同一のフロッピーディスクに保存し（Fileをプルダウンして保存をクリックするとハードディスク上に保存されますので、そのファイルをフロッピーに移してください）、添付のラベルシール（CD-ROMと一緒に別袋に入っています）を貼付の上ご送付ください。発表申込用フォームと講演要旨入力用フォームのプリントアウト（A4サイズ）を各1部同封してください。（プリント見本参照）

なお、ハードディスク上のデータは必ずお手元にもバックアップを保管してください。

※プリントアウトについて：今回ご使用いただくアプリケーション（Quark XPressデモ版）は、

プリントアウト時に「Quark XPress Demo」という絵柄が印刷されます。お手元に印刷物が
必要な方は、お手数ですが、一旦べつのワープロもしくはテキストエディタ等に文章をコピー・
ペーストしていただき、プリントアウトしていただくようお願い申し上げます。

B. Windows形式で入力する場合

*CD-ROMを使用できない方は、Text形式(C.を参照ください)で入力願います。

このCD-ROMはWindowsでも読むことができるハイブリッド版になっております。しかしながら、今
回ご使用いただくアプリケーション(Quark XPressデモ版)はMacintoshでしかお使いになれません。
Windowsをお使いの方々のために、「Windows 95」、「一太郎」、「WORD」、「ライト」で作成し
ましたサンプルフォームをいれております。こちらをお使いいただく方は、サンプルどおりに入力し
た、2DD、3.5インチフロッピーと要旨のオリジナルとハードコピー3部をお送りください。送る際
にはフロッピーのラベルには必ず、入力されたソフト名にチェックをしてください。入力については、
A.を参考にしてください。

C. Text形式で入力する場合

- 1) Macintoshをお使いの方でText形式による入力を希望される場合は、2DDあるいは2HD、3.5イン
チフロッピーをフォーマットしてください。
- 2) Windows/PCをお使いの方でText形式による入力を希望される場合は、2DD、3.5インチフロッピー
を9セクターDOS/V形式(720KBフォーマット)でフォーマットしてください。

<注意>

- ・ 発表申込用データベースに取り込むためのデータですので、改行などを用いてレイアウトを整え
る操作をしないでください。(改行無しのベタ打ちでお願いいたします)
 - ・ フロッピーディスクのラベルには、必ず使用機種、使用ソフト、代表発表者を記入してください。
 - ・ 万が一読み込めない場合に備えて、出力したものを演題要旨に添付してください。
 - ・ 発表申込データ用のタイトルには、飾り文字、罫線、その機種または日本語変換プログラムが持
つ独自の記号等は、文字化けするので使用しないでください。
- また、演題申込受取書、発表演題採否通知書にも必要事項を記入のうえ、発表申込用フォームと
同封してお送りください。

(演題申込受取書、発表演題採否通知書の記入方法は、次項7をご参照ください。)

3) 発表申込用フォームの入力方法について

- ① 入力データは、各フィールドのデータを改行(リターン)コードでつなぐ形式で保存し
てください。
- ② ファイル名は、半角で「data.txt」としてください。
- ③ ひらがな、カタカナ、漢字は全角で、それ以外(英数字等)はすべて半角で入力してくだ
さい。(半角のかなは入力しないでください。)
- ④ 共同発表者はデータ入力例を参考にまず漢字氏名をつらね、次に氏名読みを入力してくだ
さい。
- ⑤ 氏名は漢字、読みとも姓と名の間は改行コードでつないでください。
- ⑥ 送付先所在地にビル名や所属団体が入る場合は、住所との間に全角スペースを1文字分入
れてください。
- ⑦ 連絡用電話番号に内線がある場合は、半角()で番号を囲ってください。
- ⑧ 発表申込用フォーム/データ作成例

- a) ファイル名：data.txt
 b) データ入力例

北尾 ㊟
 洋之 ㊟
 きたお ㊟
 ひろゆき ㊟
 京大・理・生物物理 ㊟
 606 ㊟
 京都市左京区北白川追分町 ㊟
 075-753-3111 ㊟
 075-753-4111 ㊟
 ニワトリ免疫グロブリンH鎖定部遺伝子の構造解析 ㊟
 北尾 洋之1、山岸 秀夫1、清水 章2、Charlie F. Brown3 (京大・理・生物物理1、同・遺伝子2、Dept. Biochem., Harvard Med. Sch., USA3) ㊟
 Characterization of Constant Region Genes of the Chicken Immunoglobulin Heavy Chain ㊟
 H. Kitao1, H. Yamagishi1, A. Shimizu2, and Charlie F. Brown3 (Dept. Biophys., Fac. Sci., 2Cen. Mol. Biol. Genet., Kyoto Univ., and 3Dept. Biochem., Harvard Med. Sch., USA) ㊟
 class switch ㊟ 注) キーワード不要の場合は改行 (リターン) コードのみを
 recombination ㊟ 必ず入れてください (2フィールド共)。
 1a ㊟
 3a ㊟
 27 ㊟ 注) ワークショップを希望されない方は改行 (リターン) コードのみを
 免疫系の多様性とシグナル伝達系の多様性 ㊟ 必ず入れてください (2フィールド共)。
 山岸 ㊟
 秀夫 ㊟
 やまぎし ㊟
 ひでお ㊟
 京大・理・生物物理 ㊟
 清水 ㊟
 章 ㊟
 しみず ㊟
 あきら ㊟
 京大・遺伝子 ㊟
 Brown ㊟
 Charlie F ㊟
 ㊟ 注) 外国人でよみ不要の場合は改行 (リターン) コードのみを
 ㊟ 必ず入れてください (2フィールド共)。
 Dept. Biochem., Harvard Med. Sch., USA ㊟

- ※ ㊟ はリターンキーによる改行を意味します。
 ※ データ入力につきましては、発表申込用フォームのサンプルをご参照のうえ作成してください。

4) 講演要旨入力用フォームの入力方法について

- ① 入力データは、各フィールドのデータを改行 (リターン) コードでつなぐ形式 で保存してください。
- ② ファイル名は、半角で「abs.txt」としてください。
- ③ ひらがな、カタカナ、漢字は全角で、それ以外 (英数字等) はすべて半角で入力してください。(半角のかなは入力しないでください。)
- ④ 連絡用電話番号に内線がある場合は、半角0で番号を囲ってください。
- ⑤ 講演要旨入力用フォーム/データ作成例

内訳、住所・氏名をご記入のうえ、下記の郵便振替口座へご送金ください。

〈送金口座〉

口座番号：00970-2-20541

加入者名：第20回日本分子生物学会年会

(学会費の払込とは、口座が異なりますのでご注意ください)

- 1) 11月4日までに参加費を払込まれた方には、年会前(11月下旬)に講演要旨集(CD-ROM版)と参加章を送付いたします。
- 2) 参加費等払込の領収書は、原則として発行しませんのでご了承ください。
念のため、郵便局が発行する受領証は、講演要旨集や参加章の到着まで保管しておいてください。
- 3) 講演要旨集の印刷物は、希望者にのみ有償で配布いたします。印刷の都合上、必ず事前申込用紙(郵便振替用紙)で予約してください。(11月4日締切)

年会期間中の宿泊、JR券、航空券等のご案内

宿泊については、会報に綴込んだ「宿泊のご案内」をご利用ください。交通手段についてご希望がある方は、下記の旅行代理店にご連絡ください。

〒600 京都市下京区塩小路

JTB京都支店

「第20回日本分子生物学会年会」係(担当：甲斐、上芝原)

Tel.: 075-361-7241 Fax: 075-341-1028

プログラム(印刷物)について

従来どおり全会員の方に前もってプログラムを郵送いたします。今年度は講演要旨集がCD-ROMとなるため、非会員の方にも当日会場にてプログラムを配布いたします。

講演要旨集について

- ① 今回の要旨集は、はじめての試みとしてパソコン用のCD-ROMで製作・配布いたします。講演要旨集(CD-ROM版)1部の代金は、参加費に含まれます。
- ② 従来通りの冊子(印刷物)をご希望の方は、同封の用紙(年会参加費と同一)にて、別途お申し込みください。会員3,000円、非会員5,000円にて販売いたします。(冊子は、お申込みいただいた部数しか印刷いたしません。会場では販売いたしませんので、必要な方は必ずお申し込みください。)
- ③ 会場には、CD-ROMを表示・印刷する設備(パソコン、プリンター等)を用意いたしません。必要な抄録は、必ず事前に印刷の上、会場にお持ちください。

第20回日本分子生物学会年会に関するお問い合わせ先

〒606 京都市左京区吉田河原町14

(財)近畿地方発明センター内(株)コングレ京都支店内

第20回日本分子生物学会年会事務局

Tel.: 075-752-0888 Fax: 075-762-2304

email: bunshi@congre.co.jp

23頁の「送付内容チェックリスト」に従い、提出書類に不備がないように事務局宛にお送りください。

第20回日本分子生物学会年会 日程表（予定）

Event Hall
G,H,I,J,K
553,554

	フリスター	Room A	Main Hall	Room B-1	Room D	Room E	Room B-2	Room C-1	Room C-2	ポスター会場
12月16日 (火)	8:00									
	10:00	異分野セミナー			テクニカルセミナー					コアータイム
	12:00		シンポジウム							ポスター
	14:00									
	16:00						ワークショップ			ソーシャルアワー
18:00										
12月17日 (水)	8:00									
	10:00	異分野セミナー			テクニカルセミナー					コアータイム
	12:00		シンポジウム							ポスター
	14:00									
	16:00						ワークショップ			ソーシャルアワー
18:00										
	公開講演会									
12月18日 (木)	8:00									
	10:00	異分野セミナー			テクニカルセミナー					コアータイム
	12:00			総会						ポスター
	14:00		シンポジウム							
	16:00						ワークショップ			ソーシャルアワー
18:00										
	懇親会									
12月19日 (金)	8:00									
	10:00		シンポジウム							ポスター
	12:00					テクニカルセミナー				コアータイム
	14:00									
	16:00						ワークショップ			ソーシャルアワー

第20回ポスター発表分類表 (Classification of poster sessions)

- 1 分子構造 (Molecular structures)
 - a 遺伝子 (Genes)
 - b ゲノム (Genomes)
 - c 蛋白質 (Proteins)
 - d 核酸 (Nucleic acids)
 - e 糖 (Carbohydrates)
 - f 脂質 (Lipids)
 - g 分子集合 (Molecular assemblies)
 - h その他 (Others)
- 2 分子機能 (Molecular functions)
 - a 複製 (Replication)
 - b 組換え、修復 (Recombination and repair)
 - c 転写 (Transcription)
 - d RNAプロセッシング・修飾・分解
(RNA processing, modifications and degradation)
 - e 翻訳 (Translation)
 - f 蛋白質のプロセッシング・修飾・分解
(Protein processing, modifications and degradation)
 - g 輸送と局在化 (Transport and localization)
 - h その他 (Others)
- 3 細胞の構造 (Cellular structures)
 - a 染色体および核構造
(Chromosomes and nuclear structures)
 - b 生体膜 (Membranes)
 - c 細胞質および細胞質構造
(Cytoplasm and cytoplasmic structures)
 - d オルガネラ (Organelles)
 - e その他 (Others)
- 4 細胞の機能 (Cellular functions)
 - a エネルギー (Bioenergetics)
 - b 運動 (Cell motility)
 - c シグナル伝達 (Signal transduction)
 - d 細胞分裂・細胞周期
(Cell division and cell cycle)
 - e ストレス応答 (Stress response)
 - f 細胞形質転換 (Transformation)
 - g アポトーシス (Apoptosis)
 - h その他 (Others)
- 5 高次生命現象
(Integrative and specialized cellular events)
 - a 細胞間認識
(Cell-cell interactions and recognition)
 - b 発生および分化
(Development and differentiation)
 - c 免疫系 (Immune systems)
 - d 神経系 (Nervous systems)
 - e 老化 (Aging)
 - f 癌 (Cancer)
 - g 遺伝病 (Genetic diseases)
 - h その他 (Others)
- 6 分子生物学の方法・技術
(Methods and techniques)
 - a DNA工学 (DNA technology)
 - b RNA工学 (RNA technology)
 - c 蛋白質工学 (Protein technology)
 - d トランスジェニック生物
(Transgenic animals and plants)
 - f 病因解析および診断 (Diagnosis)
 - g その他 (Others)
- 7 生命情報科学・理論
(Bioinformatics and theories)
 - a 分子進化 (Molecular evolution)
 - b その他 (Others)

ワークショップ

12月16日(火) 15:30-18:00

1. 細胞膜裏打ち分子による細胞増殖と分化の制御機構

オーガナイザー：野田哲生（(財) 癌研究会癌研究所）、秋山徹（大阪大学微生物病研究所）

生体の各種組織を構成する細胞の増殖と分化は、細胞間コミュニケーションによりもたらされる情報により制御されており、こうした情報は細胞膜の裏打ち構造を通して細胞内に伝えられると考えられる。細胞膜の裏打ち構造には多くの機能性分子が存在するが、 β カテニンと結合して細胞膜直下に存在するAPC蛋白や、ERMファミリーのひとつであるメルリンが癌抑制遺伝子産物として機能するという事実は、細胞膜裏打ち分子が細胞の増殖・分化を制御している情報伝達系に深く関与していることを示すものである。本ワークショップでは、こうした細胞膜裏打ち分子の機能を明らかにすることにより、細胞増殖の制御機構に迫ってみたい。

2. 遺伝子発現制御における仲介因子の役割

オーガナイザー：石井俊輔（理化学研究所）、広瀬進（国立遺伝学研究所）

コアクティベーターやコリプレッサーなどの仲介因子はプロモーター上流に結合する転写制御因子とTBPやTFIIIBなどの基本転写因子との間のブリッジ役の分子として同定されてきた。例えばコアクティベーターCBPは約300kDaの大きな蛋白質であり、Cdkなどのリン酸化酵素とも結合し、ヒストンアセチル化酵素の活性を持ちヌクレオソーム構造を弛緩させることも推定されている。しかし仲介因子がどのようなメカニズムで転写を活性化するのか、どれくらいの数の仲介因子が存在するのか、1種類の仲介因子をどれくらいの数の転写制御因子が用いているのか、仲介因子に結合する制御因子は存在するのか、また仲介因子はどのような生理的役割を持っているのかというような基本的な問題も現時点では多くが不明である。このように、仲介因子は転写因子と種々の制御因子を集合させるための鍵として機能し、仲介因子の研究は、遺伝子発現制御研究の新たな分野を形成しつつある。本ワークショップでは、仲介因子に関する最新の研究成果を発表して頂き、意義のある情報交換の場としたい。

3. 細胞間接着機構の多様性：認識そしてシグナリング

オーガナイザー：上村匡（京都大学大学院理学研究科）、永瀨昭良（京都大学大学院医学研究科）

細胞集団を高度に組織化するメカニズムの中で、細胞間の直接的なコンタクトを介した相互作用に注目する。まず、複雑な細胞認識機構から成り立つ例として神経系の構築を取り上げ、細胞表面レセプターの新しいファミリーの発見とその機能解析を紹介する。次に、上皮細胞などを材料に、細胞骨格系の構成因子またはその動態調節分子を糸口として、細胞接着のコントロールにアプローチした研究を紹介する。

4. プロテインキネシス—小胞輸送とオルガネラ形成の分子機構—

オーガナイザー：藤木幸夫（九州大学理学部）、池原征夫（福岡大学医学部）

真核細胞は非常に緻密に分化した膜細胞に基づく生命活動を行っている。これら膜構造・オルガネラの形成と分化のプロセスは遺伝的に制御されていると考えられ、機能を担う実体すなわちタンパク質の選別輸送の問題も含めて、プロテインキネシス（Protein Kinesis）と概念付けられている。本ワークショップでは膜輸送とオルガネラ形成のダイナミズムに関し、小胞輸送とバルオキシソームをトピックに取り上げ研究の現状と展望について討論する。

5. 多機能分子 NO による生体制御と病態

オーガナイザー：森正敬（熊本大学医学部）、井上正康（大阪市立大学医学部）

一酸化窒素（NO）は血管拡張因子として、また中枢・末梢神経における神経伝達物質や免疫・炎症細胞による殺菌因子などとして、強力かつ多彩な生理活性を有する話題の分子である。一方NOは両刃

の剣でcytotoxicでもあり、疾患の憎悪因子となりうる。本ワークショップではNO合成に関与する遺伝子群の特性と発現制御、脳神経機能におけるNOの役割、感染病態や生体防御におけるNOの動態などを論じ、生体制御や生物生存におけるNOの意義を考察する。

6. ウイルスによる外来遺伝子の高度発現と発現制御研究の発展

オーガナイザー：永井美之（東京大学医科学研究所）、斎藤泉（東京大学医科学研究所）

ウイルス研究は個々のウイルスゲノムの各論的研究の段階から、目的に応じて改変した組換えウイルスを用いた多彩な生物学として展開を開始した。そのひとつとして「ウイルス工学」と呼ぶべき分野が誕生し、従来の技術の壁を破るような高度な発現や発現制御がウイルス学の枠を越えて、動物細胞や個体を用いた発現研究に続々と応用されるようになった。ウイルスが本来持っている極めて高い導入・発現効率を利用した「ウイルス工学」の手法による高度発現と発現制御研究の最先端を紹介し、それに依拠する遺伝子発現研究の新たな展開を議論したい。

7. AML1 蛋白質の機能と白血病への関与

オーガナイザー：伊藤嘉明（京都大学ウイルス研究所）、平井久丸（東京大学医学部）

AML1遺伝子は*Drosophila* pair-rule遺伝子runt、およびマウス polyomavirus enhancer結合蛋白質をコードするPEBP2 α Aと相同性を持ち、白血病で認められるt(8;21), t(3;21), t(12;21)染色体転座により再構成され、白血病発症に深く関与する。ノックアウトマウスを用いた解析では、AML1欠失マウスはdefinitive造血が障害されて胎生中期に死亡することから、AML1は造血に必須であることが示されている。このワークショップでは転写因子AML1の造血における機能と白血病発症への関わりについて十分な討議を行うことを目的とする。

8. 酸素による遺伝子発現の制御

オーガナイザー：桑野信彦（九州大学医学部）、佐々木隆造（京都大学大学院農学研究科）

酸素における遺伝子発現の制御機構を解明することによって、虚血による脳、及び心臓における細胞死の回避や、血管新生に伴う癌組織の生長の抑制が可能になればこれらの疾患の治療にとって光明となろう。ここ数年で、低酸素遺伝子発現誘導機構の解明が急速に進みつつある。酸素濃度変化の認識（酸素受容体の存在）、シグナル伝達、及び遺伝子発現の機構に関する最新の情報を提供すべく本ワークショップを企画した。

12月17日（水） 15:30-18:00

9. アポトーシス

オーガナイザー：長田重一（大阪大学医学部）、辻本賀英（大阪大学バイオメディカル教育研究センター）

アポトーシス（細胞死）は動物の発生、およびその恒常性を維持するうえで重要な過程である。この過程に関与する分子としては、アポトーシスを引き起こす分子（effectors）、活性化因子（activators）、およびその抑制因子（negative regulators）が考えられる。この数年の間にこれらの因子が次々と同定され、その作用機構が解析されつつある。本ワークショップでは、主にポスター発表者から選択した演者に口演をしていただき、活発な討論を予定している。

10. 発生における形態形成の調節機構

オーガナイザー：黒岩厚（名古屋大学大学院理学研究科）、浜田博司（大阪大学細胞生体工学センター）

動物の発生過程におけるボディプランの決定、プランの具現化、パターン形成過程の分子的解析が日進月歩の勢いで進展している。これらの過程で調節のキーとなる転写因子やシグナル分子の機能解析を通じた形作りの機構について、最近のまとめを行い、さらに先鋭的な研究のトピックを一般演題からピックアップしたワークショップとする。

11. 老化の分子生物学

オーガナイザー：鍋島陽一（国立精神神経センター）、石川冬木（東京工業大学生命理工学部）

老化の進化学に従えば、全ての老化現象を規定する適応的なプログラムは存在しない。したがって、老化は、種・個体・環境などのさまざまな要因に応じて、異なる分子機構が作用した結果生じるヘテロな現象であると考えられる。しかし、近年、代表的な老化現象について、我々は分子の言葉で語る事が可能になりつつある。本ワークショップでは、老化の分子モデルの各論を論じた後、我々は老化を全体としてどのように理解すればよいのかを議論したい。

12. モデル生物の行動遺伝学—遺伝子、神経回路とメカニズム

オーガナイザー：山元大輔（三菱化学生命科学研究所）、桂勲（国立遺伝学研究所）

多細胞生物は、神経系を用いて環境や自分の体の状態を感じとり、その感覚情報を処理して、応答として行動を引き起こす。この過程が、具体的にどんな遺伝子や神経回路の働きにより、どのようなメカニズムで行われるかは、生物学の大きな課題である。この分野の研究材料として、遺伝学が使える比較的単純な神経回路構造を持つモデル生物は、重要な役割を果たしている。このワークショップでは、*Drosophila*や*C. elegans*を材料として行われた最近の研究を紹介し、議論する。

13. モービル DNA

オーガナイザー：池田日出男（東京大学医科学研究所）、坂野仁（東京大学大学院理学系研究科）

生命は外界の変化に対処するため、遺伝情報を積極的に多様化して来た。動く遺伝子は自身の動く機能によって種から種へ、あるいは染色体から染色体へ移動し、遺伝情報の多様化に寄与している。一方、細胞側にも遺伝子の構造を変化させる機構が存在する。本ワークショップでは、バクテリアから高等生物までの遺伝子の動く機構について話題提供を行い、組換えの基礎的機構、生体の機能やその防御、生物の進化などの面からの討論を行う。

14. DNA 修復のダイナミクス

オーガナイザー：田中亀代次（大阪大学細胞生体工学センター）、花岡文雄（大阪大学細胞生体工学センター）

DNA修復は、細胞のがん化・老化や突然変異と密接な関係にあり、種の保存に必須の機能であるばかりか、個体の維持にも重要なプロセスである。本ワークショップでは、近年急速に進展しつつあるヌクレオチド除去修復、塩基除去修復、ミスマッチ修復など、様々なDNA修復機構の分子レベルでの研究がどこまで進んでいるのかを紹介するとともに、それらの過程が他のDNA代謝とどのようにダイナミックに関わっているかを議論したい。

15. ABC 蛋白の多機能性と ATP を介する生命維持機構

オーガナイザー：清野進（千葉大学医学部）、植田和光（京都大学農学部）

細胞内ATPは、エネルギーとしてだけでなく、細胞環境をモニターするシグナル分子として機能している。膵β細胞では、SURが細胞内ATP/ADP濃度をモニターにし、Kチャンネルを介してインスリン分泌を制御している。CFTRはClチャンネルであり、MDR1やMRPは生体異物排出ポンプである。これらABC蛋白の機能はポンプ、フリッパーゼ、チャンネル、レセプターと多様である。本ワークショップでは、ABC蛋白の多機能性とATPを介する生命維持機構を討論する。

16. ゲノム工学を用いた機能解析

オーガナイザー：押村光雄（鳥取大学医学部）、中山建男（宮崎医科大学）

生きた細胞の染色体を構造改変する技術とマウスES細胞の中に新たに染色体を導入した研究を紹介する。これらは、染色体の構造—機能連関の解析、遺伝子のポジショナルクローニング、染色体レベルでの遺伝子発現調節機構解析、トリソミー等染色体異常のモデルマウスの作成に有用である。また高頻

度にターゲットインテグレーションをおこすニワトリBリンパ細胞株を使った、染色体の構造改変、遺伝子ノックアウトを紹介する。

12月18日(木) 15:30-18:00

17. シグナル伝達の空間的・時間的制御機構

オーガナイザー：竹縄忠臣（東京大学医科学研究所）、高井義美（大阪大学医学部）

細胞内のシグナル伝達機構では、種々の因子の組み合わせによってシグナル伝達経路が形成され、これらの経路がさらにクロストークをしながら多彩な細胞機能を制御している。最近、シグナル伝達経路のいくつかの構成因子が細胞内の各部位でコンパートメントを形成し、その部位の特異的な機能のある時間制御していることが明らかになりつつある。本ワークショップでは、細胞内のシグナル伝達においてどのような機構でこの空間的・時間的な制御がなされているかを論議する。

18. 細胞周期の制御機構

オーガナイザー：岡山博人（東京大学医学部）

増殖は生命の原点であり、分化は生存の可能性を高めるために細胞が獲得した戦略である。単細胞生物は、増殖に好条件では増殖しそうではない場合は分化し生存の可能性を高めている。一方、多細胞生物では、発生と分化を経て個体を形成することにより、増殖と生存の可能性を高めている。この増殖と分化の制御には、細胞周期の制御が深く関わっている。増殖開始の制御は、細胞周期の開始の制御であり、増殖と二律背反の関係にある分化の開始制御には、細胞周期の停止制御が表裏一体として存在している。増殖を開始した細胞は、細胞周期を進行しながら増えるが、この進行は、細胞内外の状況を把握しそれに基づいて作動するチェックポイント機構によって制御される。このワークショップでは、細胞周期の進行の機構、増殖と分化の開始制御の接点とチェックポイント機構に関する最近の話題を討論したい。

19. 核内レセプターを介するシグナル伝達分子機構

オーガナイザー：加藤茂明（東京大学分子細胞生物学研究所）、村松正実（埼玉医科大学）

ステロイド・甲状腺ホルモン及ビタミンA、D、エイコサノイドをリガンドとする核内レセプター群は、1つの遺伝子スーパーファミリーを形成する、リガンド誘導性転写制御因子である。このファミリーには、リガンド未知のレセプターも数多く存在する。核内レセプターを介するシグナル伝達系は、細胞分化・増殖や代謝制御、更には病態などにも深く関わっている。そこで、これらシグナル伝達全般を網羅する研究の現状と展望を紹介したい。

20. 植物細胞の増殖に関わる遺伝子研究の新展開

オーガナイザー：町田泰則（京都大学大学院理学研究科）、中村研三（名古屋大学大学院生命農学研究科）

植物細胞の増殖には、動物細胞とは異なる二つの重要な特徴がある。一つは、増殖のためにオーキシンとサイトカイニンという生理活性物質が必須であること、第二は、細胞質分裂は細胞板形成により細胞質が二分され、この課程には微小管が深く関わっていることである。本ワークショップでは、このような特徴的な植物細胞の増殖制御に関わっている遺伝子・タンパク質についての最新の研究成果を持ち寄り議論する。

21. 組換えにおける DNA トランスアクション

オーガナイザー：品川日出夫（大阪大学微生物病研究所）、小川智子（国立遺伝学研究所）

相同組換えの開始が、部位特異的な組換えであるV(D)J再編成の際の反応、また、転移因子の転移や、Muファージ、HIVの非相同的組込みの際のDNA切断反応と類似な機構で起こることを最近の研究は示唆している。今回のワークショップでは、組換えの開始と、それ以後の課程に関与する蛋白質の機能と

それらの基質である特異なDNA構造との関連を中心に討論し、これら種々の組換えの分子機構における普遍性と特異性に迫ることを目的とする。

22. サイクリン依存性キナーゼとそのインヒビター

オーガナイザー：田矢洋一（国立がんセンター）、岸本健雄（東京工業大学生命理工学部）

サイクリン依存性キナーゼ(CDK)とそのインヒビターは、DNA複製開始や細胞分裂という現象の制御に重要な役割を演じており、その異常が癌やアポトーシスと深く関わっていることもわかりつつある。しかし、これらの生合成・分解の調節機構や、それぞれのCDK種によってリン酸化を受ける細胞内のターゲット蛋白質、それぞれのインヒビターを誘導する刺激などに関しては不明な点が多い。このワークショップでは主にそうした所に焦点を当てる。

23. ゲノムインプリンティング研究の最近の進歩

オーガナイザー：佐々木裕之（九州大学遺伝情報実験施設）、向井常博（国立循環器病センター研究所）

哺乳類の父由来・母由来ゲノムに機能的差異を付与するゲノムインプリンティングは、90年代に入ってようやくその分子の解析が始まったが、ここ数年の進歩には目を見張るものがある。とくに我国の研究者の果たしている役割は大きい。インプリンティングの機構、進化、発生や疾患との関連について、分子レベルで明らかになった結果をもとに現状を知り、今後の研究の展開を展望する。

24. 構造生物学の新しい展開

オーガナイザー：藤吉好則（京都大学大学院理学研究科）、稲垣冬彦（東京都臨床医学総合研究所）

構造生物学の発展により、蛋白質の機能ドメインの構造や標的ペプチドとの認識に関する知見が集積されてきた。しかし、蛋白質相互の認識や制御を理解するためには、より大きな構造フレームを対象とした構造研究を行う事が必要である。この点で、X線結晶構造解析、核磁気共鳴法、電子顕微鏡等をうまく組み合わせた新しい方法論の展開が望まれている。ここでは、構造生物学研究の現状を紹介するとともに、この方向を目指したいいくつかの研究を紹介する。

12月19日（金） 14:00-17:00

25. ゲノム解析をベースにした疾患の分子機構の解析

オーガナイザー：辻省次（新潟大学脳研究所）、中村祐輔（東京大学医科学研究所）

ヒトゲノム解析は現在猛烈な勢いで展開されており、このようなゲノム解析を基盤として、従来の研究方法では不可能であった疾患の分子機構の解明が可能となってきた。本シンポジウムでは、このようなヒトゲノム解析を基盤として、ヒトの疾患遺伝子をどのように解明していくのか、さらに疾患遺伝子が解明された後、どのようにして疾患の発症機構を分子レベルで研究していくのか、という点に焦点をあてて企画した。

26. 脳高次機能と神経回路網形成の接点

オーガナイザー：三品昌美（東京大学医学部）

脳神経系は有限の遺伝子情報で無限の外部情報に対応する生物の適応戦略の中心である。脳の高次機能と神経情報伝達分子・シナプス可塑性分子との関係や脳・神経回路網形成の分子機構の解析が進められるなど、生物学最後のフロンティアとされてきた脳研究は大きく進展し始めている。記憶・学習もニューロンネットワーク形成も外部情報を自身の構造に取り込むプロセスを共有している。本ワークショップでは、共通原理はあるのか、両研究領域のクロストークと接点を目標に設定した。

27. 免疫系の多様性とシグナル伝達系の多様性

オーガナイザー：山本雅（東京大学医科学研究所）、渡邊武（九州大学生体防御医学研究所）

免疫細胞上には抗原受容体、種々のサイトカイン受容体、補助受容体、接着因子など多種多様な受容

体が発現されており、多様な細胞外シグナルが細胞内、核内に伝えられ免疫細胞の分化、活性化の制御が行われている。近年、それら受容体からの細胞内シグナル伝達系の研究が進み、多種多様な分子によってシグナル伝達が行われていることが明らかにされつつある。本シンポジウムでは免疫反応の多様性とシグナル伝達の多様性に焦点をあてて討議する。また、免疫細胞情報伝達系の異常が個体レベルでどのような免疫異常をもたらすかについても触れる。

28. 血管科学の新しい流れ —分子生物学的アプローチ—

オーガナイザー：眞崎知生（京都大学大学院医学研究科）

血管研究の中心的課題である血管新生、血管の収縮・弛緩、動脈硬化など諸問題が分子生物学的手法を用いて研究されている。わが国においても最近この分野の、すなわち、VEGF（内皮細胞増殖因子）に対する受容体Flt-1と血管新生、エンドセリンを中心とした血管機能修飾因子と収縮、弛緩、動脈硬化の発生のKeyとされる酸化LDLの新しい受容体Lox-1発見などである。今回のワークショップでは、これらの命題につき、新しい成果を中心に討論したい。

29. グリアとニューロンの分化

オーガナイザー：堀田凱樹（東京大学大学院理学系研究科）、池中一裕（国立岡崎共同利用研究機構）

脳神経系を構築するグリアとニューロンは共通の幹細胞に由来するが、その分化の詳細な機構はまだ不明な点が多い。ショウジョウバエでは最近その分化のマスタースイッチであるgcm遺伝子が発見されて解明の端緒が開かれた。本ワークショップでは、ショウジョウバエから脊椎動物に至る多種の生物におけるグリア分化と遺伝子発現について比較して共通機構が存在するか否かを検討し、あわせて神経系におけるグリア細胞の機能に関しても明らかにしたい。

30. 骨代謝調節に関わる分子機構

オーガナイザー：野田政樹（東京医科歯科大学難治疾患研究所）、宮園浩平（（財）癌研究会癌研究所）

近年のターゲティングによる様々の分子の解析から骨代謝に直接関わる分子群が新たに明らかになりつつある。本ワークショップではこれらの分子群の骨代謝における骨の形成並びに骨の吸収を含めた調節機構の中核にある骨芽細胞並びに破骨細胞の機能制御と直接関わる分子群を中心としてワークショップを行う。

31. 生物進化と生体ネオシステム

オーガナイザー：植田信太郎（東京大学大学院理学系研究科）、斎藤成也（国立遺伝学研究所）

進化の過程で生物は体制の複雑化と多様性を獲得してきた。体制の複雑化は、旧来の生体システム上に画期的な変化が生ずること（「ネオシステム」の創出）により成功したと考えられる。本ワークショップでは、生物進化の過程でどのような構造的・構成的変化がゲノム上に生じてきたのか、ゲノムの構造的・構成的変化によって生体システムにどのような変化が生じてきたのか、その結果どのように体制を複雑化させることに成功してきたのか、について考える。

32. 第二世代の植物バイオテクノロジー

オーガナイザー：佐野浩（奈良先端科学技術大学院大学）

横田明穂（奈良先端科学技術大学院大学）

近い将来に予測される地球規模での環境悪化と食糧不足に対応するために、植物バイオテクノロジーの技術に大きな期待がよせられている。そのためには、これまでのような単一遺伝子の導入による単一形質の改良では十分とは言えない。多数の形質を同時に改良する必要がある。環境に対する組み換え植物の安全性も評価されなければならない。本ワークショップでは、得られる限りの実験結果を検討し、植物分子育種の今後の方向を見極めることを目的とする。

シンポジウムプログラム

日時	オーガナイザー	テーマ	演者	国
12月16日 (火) 12:00 - 14:30	成宮 周 (京大・医)	細胞の運動と極性を制御するシグナル Signals and their Transduction in Cell Migration and Polarity	1 Frederick R. Maxfield	USA
			2 Tim Mitchison	USA
			3 月田 承一郎	Japan
12月17日 (水) 12:00 - 14:30	梅園 和彦 (京大ウイ研)	細胞応答における転写の制御機構 Transcriptional Regulation of Cellular Responses	1 Ronald M. Evans	USA
			2 Yoshihiro Nakatani	USA
			3 山本 雅之	Japan
12月17日 (水) 12:00 - 14:30	武田 俊一 (京大・医)	分子生物学の実験材料としての免疫細胞 How can Immunology Contribute to Molecular Biology?	1 谷口 維紹	Japan
			2 未定	
			3 未定	
12月17日 (水) 12:00 - 14:30	米原 伸 (京大ウイ研)	アポトーシスの分子機構と生理作用 Apoptosis: Molecular Mechanism and Physiological Role	1 Michael O. Hengartner	USA
			2 David Wallach	Israel
			3 辻本 賀英	Japan
12月17日 (水) 12:00 - 14:30	西田 栄介 (京大・理) 西川 伸一 (京大・医)	シグナル伝達と形態形成 Signal Transduction and Morphogenesis	1 Joan Massague	USA
			2 松本 邦宏	Japan
			3 Norbert Perrimon	USA
12月18日 (木) 12:00 - 14:30	森川 耿右 (生物分子工学 研究所)	立体構造からみた分子認識と生物機能 Molecular Recognition and Biological Function as Revealed from Three-dimensional Structure	1 Stephan K. Burley	USA
			2 森川 耿右	Japan
			3 Ian A. Wilson	USA
12月18日 (木) 12:00 - 14:30	竹市 雅俊 (京大・理)	神経発生と脳の構築 Neural Development and Brain Construction	1 David Anderson	USA
			2 Carla J. Shatz	USA
			3 竹市 雅俊	Japan
12月18日 (木) 12:00 - 14:30	柳田 充弘 (京大・理)	細胞周期 The Cell Cycle	1 Tony Hunter	USA
			2 Marc W. Kirschner	USA
			3 柳田 充弘	Japan
12月18日 (木) 12:00 - 14:30	永田 和宏 (京大胸部研)	プリオンと分子シャペロン Prion and Molecular Chaperone	1 Susan Lindquist	USA
			2 Stanley B. Prusiner	USA
			3 矢原 一郎	Japan
12月19日 (金) 9:00 - 11:30	中西 重忠 (京大・医)	最近の神経科学のトピックス-脳機能の メカニズムの理解に向けて Recent Topics in Neuroscience - Toward our Understanding of Mechanism of Brain Function	1 Marc G. Caroh	USA
			2 森吉 弘毅	Japan
			3 高橋 智幸	Japan
12月19日 (金) 9:00 - 11:30	田代 啓 (京大・医)	選択的タンパク質分解による生理機能の調節 Regulation of Physiological Cellular Functions by Selective Proteolysis	1 Zhijian James Chen	USA
			2 Aaron Ciechanover	Israel
			3 田中 啓二	Japan
12月19日 (金) 9:00 - 11:30	岡田 清孝 (京大・理)	植物と動物のボディプランを比較する Genetic Comparison of Body Plans of Plants and Animals	1 相澤 慎一	Japan
			2 Ben Scheres	The Netherlands
			3 未定	

送付内容チェックリスト

1. 標準フォーマットの場合

- 1) 発表申込用フォームと講演要旨入力用フォームを入力したフロッピー
- 2) 発表申込用フォームのプリントアウト (A4サイズ) 1枚
- 3) 講演要旨入力用フォームのプリントアウト (A4サイズ) 1枚
- 4) 演題申込受取書 (はがき)
- 5) 発表演題採否通知書 (はがき)
- 6) 本年度学会費受領証コピーと第20回年会参加費受領証コピー

2. Windows/テキスト入力の場合

- 1) Windows/TEXT入力した発表申込用フォーム講演要旨入力用フォームを入力したフロッピー
- 2) Windows/TEXT入力した発表申込用フォームのプリントアウト1枚
- 3) 講演要旨入力用フォームオリジナルとコピー3枚
- 4) 演題申込受取書 (はがき)
- 5) 発表演題採否通知書 (はがき)
- 6) 本年度学会費受領証コピーと第20回年会参加費受領証コピー

事務局記入欄

*この用紙は各受領証のコピーを貼付していただくものです。下欄
に必要事項を記入のうえ、切り離したものを送付してください。

受付番号

--

代表 発表 者		所属	
		連絡先	

本年度学会費受領証コピー
貼付位置

第20回年会参加費受領証コピー
貼付位置

受付日

受付番号

演題番号

第20回日本分子生物学会年会 発表申込用フォーム

○代表発表者

フリガナ	きたお	ひろゆき	所属	京大・理・生物物理 ←
氏名	北尾	洋之		
住所	〒	606	京都市左京区北白川追分町	
	TEL	075-753-3111	FAX	075-753-4111

○演題名 (講演要旨用フォームと一致していること)

日本語	ニワトリ免疫グロブリンH鎖定常部遺伝子の構造解析 北尾 洋之 ¹ 、山岸 秀夫 ¹ 、清水 章 ² 、Charlie F. Brown ³ (京大・理・生物物理、同・遺伝子 ² 、Dept. Biochem., Harvard Med. Sch., USA ³)
英語	Characterization of Constant Region Genes of the Chicken Immunoglobulin Heavy Chain H. Kitao ¹ , H. Yamagishi ¹ , A. Shimizu ² , and Charlie F. Brown ³ (Dept. Biophys., Fac. Sci., ² Cen. Mol. Biol. Genet., Kyoto Univ., and ³ Dept. Biochem., Harvard Med. Sch., USA)

所属の入力はサンプルの表記に準じてください。

同一フィールド内でのリターンキーでの改行をしないでください。講演要旨用フォームからコピー、ペーストして下さい。

・発表される演題の英文タイトル中に含まれていない語句で追加キーワードがあれば下記枠内に英文でご記入ください (各語句30字まで)。

class switch	recombination
(英文に限る)	(英文に限る)

	発表 分類 (第一希望)	発表 分類 (第二希望)
一般演題	1a	3a
ワークショップ	発表希望ワークショップ番号→ 題→ 免疫系の多様性とシグナル伝達系の多様性	27

○共同発表者

2	フリガナ	やまぎし	ひでお	フリガナ		
	氏名	山岸	秀夫	氏名		
	所属	京大・理・生物物理		所属		
3	フリガナ	しみず	あきら	フリガナ		
	氏名	清水	章	氏名		
	所属	京大・遺伝子		所属		
4	フリガナ			フリガナ		
	氏名	Brown	Charlie F	氏名		
	所属	Dept. Biochem., Harvard Med.Sch., USA		所属		
5	フリガナ			フリガナ		
	氏名			氏名		
	所属			所属		
6	フリガナ			フリガナ		
	氏名			氏名		
	所属			所属		
7	フリガナ			フリガナ		
	氏名			氏名		
	所属			所属		
8	フリガナ			フリガナ		
	氏名			氏名		
	所属			所属		
9	フリガナ			フリガナ		
	氏名			氏名		
	所属			所属		
10	フリガナ			フリガナ		
	氏名			氏名		
	所属			所属		
11	フリガナ			フリガナ		
	氏名			氏名		
	所属			所属		

* 漢字・かなのフォント (書体) は細明朝体を使用してください。欧米・数字のフォントはTimesを使用してください。なお、外国人の方は、ファミリーネーム、ファーストネーム、ミドルネーム (イニシャル) の順で、上記の例をご参考に記入してください。

受付日

受付番号

演題番号

SAMPLE

第20回日本分子生物学会年会
講演要旨入力用フォーム

ニワトリ免疫グロブリンH鎖定常部遺伝子の構造解析

北尾 洋之¹、山岸 秀夫¹、清水 章²、Charlie F. Brown³ (京大・理・生物物理¹、同・遺伝子²、Dept. Biochem., Harvard Med. Sch., USA³)

Characterization of Constant Region Genes of the Chicken Immunoglobulin Heavy Chain

H. Kitao¹、H. Yamagishi¹、A. Shimizu²、and Charlie F. Brown³ (Dept. Biophys., Fac. Sci., ²Cen. Mol. Biol. Genet., Kyoto Univ., and ³Dept. Biochem., Harvard Med. Sch., USA)

下線

上付文字

免疫グロブリンの機能を決定するH鎖にはさまざまなアイソタイプがあり、遺伝子レベルではクラススイッチという機構で機能決定が行われている。これまでの解析から、存在するアイソタイプの種類は生物種によって異なることが知られており、クラススイッチの分子機構にも差があることが想定される。我々は、クラススイッチ機構が進化の過程でどのように変化しているかを調べるために、マウス、ヒトの哺乳類とは異なりその遺伝子構成が未解決である鳥類（ニワトリ）を実験材料に選び、そのクラススイッチ機構の解析を行っている。

今回我々は、ニワトリ免疫グロブリンH鎖定常部遺伝子の構造を調べるため、近交系V系統（H-815）ニワトリ肝臓組織より抽出した染色体DNAを用いてλファージベクターによるゲノムライブラリーを作製した。これを各種H鎖cDNAのプロープでスクリーニングし、α鎖及びμ鎖遺伝子のクローンを単離する事に成功した。現在その制限酵素地図作製および塩基配列決定などにより、各定常部遺伝子及びその周辺領域の構造解析を行っている。

Symbol フォント

Times

代表者名	北尾 洋之	TEL	075-753-3111	FAX	075-753-4111
------	-------	-----	--------------	-----	--------------

Windows およびテキスト形式でご送付される方は、原稿をプリントアウトしたものを、この用紙の枠内に貼付のうえ、原稿のコピーを3枚添付してお送りください。

文字（数字）を入力する際には、自動的にあらかじめ設定された書体およびサイズになります。それ以外で入力される場合は、文字（数字）は、9ポイント以上を使用してください。また、行送りは13ポイント以上に設定してください。

漢字・かなのフォント（書体）は、細明朝体を使用してください。欧文・数字のフォントはTimesを使用してください。

記号等はSymbolフォントをご使用ください。

上記のフォント以外（New YorkやChicagoなど）は、使用しないでください。

■特殊文字、イタリック体（数字）、上付、下付文字（数字）の入力方法

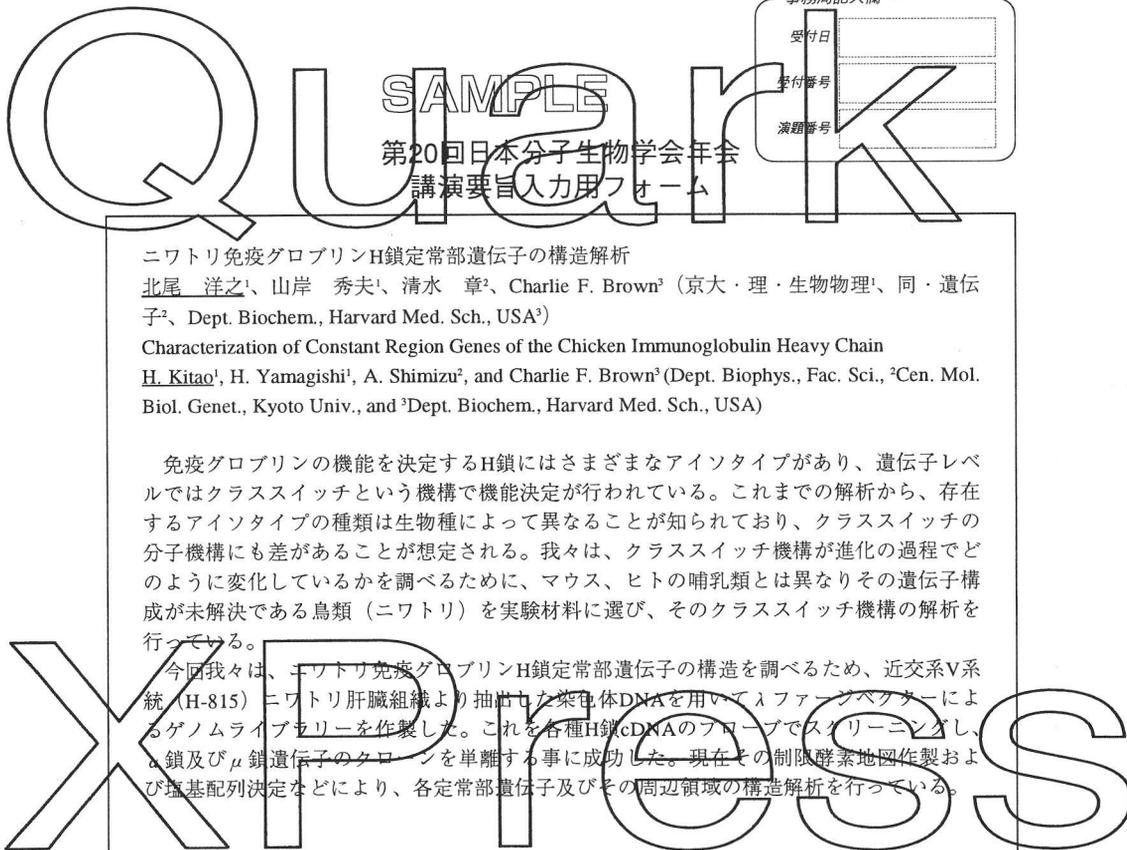
記号など特殊文字の入力時にSymbolフォントをご使用いただく場合、アプリケーション（Quark XPressデモ版）上で「スタイル」メニューをプルダウンし、「フォント」からSymbolフォントを指定することで入力することができます。

外字については基本的に受け付けることはできません。どうしても必要な場合はご相談ください。

イタリック体、上付・下付文字は、該当する文字をマウスで選択した後、「スタイル」メニューをプルダウンし、「文字飾り」からそれぞれを指定することにより設定することができます。ただし、漢字・かなにはボールド（太字）は使用しないでください。

アプリケーション（Quark XPressデモ版）の詳しい使用方法については、「Quark XPress J Demo Mac」フォルダ内にあるオンラインヘルプファイル「XPress Help」をご参照ください。

実際にプリントすると以下のように“Quark XPress Demo”の文字が印刷されますが、これで正常の状態です。



SAMPLE

第20回日本分子生物学会年会
講演要旨入力用フォーム

事務局記入欄

受付日

受付番号

演題番号

ニワトリ免疫グロブリンH鎖定常部遺伝子の構造解析
北尾 洋之¹、山岸 秀夫¹、清水 章²、Charlie F. Brown³ (京大・理・生物物理¹、同・遺伝子²、Dept. Biochem., Harvard Med. Sch., USA³)
 Characterization of Constant Region Genes of the Chicken Immunoglobulin Heavy Chain
H. Kitao¹, H. Yamagishi¹, A. Shimizu², and Charlie F. Brown³ (Dept. Biophys., Fac. Sci., ²Cen. Mol. Biol. Genet., Kyoto Univ., and ³Dept. Biochem., Harvard Med. Sch., USA)

免疫グロブリンの機能を決定するH鎖にはさまざまなアイソタイプがあり、遺伝子レベルではクラススイッチという機構で機能決定が行われている。これまでの解析から、存在するアイソタイプの種類は生物種によって異なることが知られており、クラススイッチの分子機構にも差があることが想定される。我々は、クラススイッチ機構が進化の過程でどのように変化しているかを調べるために、マウス、ヒトの哺乳類とは異なりその遺伝子構成が未解決である鳥類（ニワトリ）を実験材料に選び、そのクラススイッチ機構の解析を行っている。

今回我々は、ニワトリ免疫グロブリンH鎖定常部遺伝子の構造を調べるため、近交系V系統（H-815）ニワトリ肝臓組織より抽出した染色体DNAを用いてλファージベクターによるゲノムライブラリーを作製した。これを各種H鎖cDNAのプローブでスクリーニングし、 α 鎖及び μ 鎖遺伝子のクローンを単離する事に成功した。現在その制限酵素地図作製および塩基配列決定などにより、各定常部遺伝子及びその周辺領域の構造解析を行っている。

代表者名	北尾 洋之	TEL	075-753-3111	FAX	075-753-4111
------	-------	-----	--------------	-----	--------------

Windows およびテキスト形式でご送付される方は、原稿をプリントアウトしたものを、この用紙の枠内に貼付のうえ、原稿のコピーを3枚添付してお送りください。

文字（数字）を入力する際には、自動的にあらかじめ設定された書体およびサイズになります。それ以外で入力される場合は、文字（数字）は、9ポイント以上を使用してください。また、行送りは13ポイント以上に設定してください。

漢字・かなのフォント（書体）は、細明体を使用してください。欧文・数字のフォントはTimesを使用してください。

記号等はSymbolフォントをご使用ください。

上記のフォント以外（New YorkやChicagoなど）は、使用しないでください。

■特殊文字、イタリック体（数字）、上付、下付文字（数字）の入力方法
 記号など特殊文字の入力時にSymbolフォントをご使用いただく場合、アプリケーション（Quark XPressデモ版）上で「スタイル」メニューをプルダウンし、「フォント」からSymbolフォントを指定することで入力することができます。外字については基本的に受け付けることはできません。どうしても必要な場合はご相談ください。

イタリック体、上付、下付文字は、該当する文字をマウスで選択した後、「スタイル」メニューをプルダウンし、「文字飾り」からそれぞれを指定することにより設定することができます。ただし、漢字・かなにはボールド（太字）は使用しないでください。

アプリケーション（Quark XPressデモ版）の詳細な使用方法については、「Quark XPress J Demo Mac」フォルダ内にあるオンラインヘルプファイル「XPress Help」をご参照ください。

第20回日本分子生物学会

〈 宿泊のご案内 〉

この度、上記学会に出席されます皆様方の便宜を図るため、宿泊のお世話をJTB日本交通公社京都支店にて取り扱わせていただくことになりました。
弊社では、この学会のため特別割引料金でお部屋を確保し、御案内させていただいております。
宿泊ご希望の方は所定の申込書をご記入の上お送り下さい。

1. 宿泊期日：1997年 12月15日（月）～ 20日（土） 5泊
2. 宿泊料金：一泊朝食付き、サービス料・税金込みのお一人様料金です。

クラス	ホテル名	地図NO.	ツイン	シングル	地下鉄最寄駅
A	京都宝ヶ池プリンスホテル	1	¥10,000	*¥16,000	国際会館駅徒歩8分
	京都ホテル	2	¥13,500	¥16,500	京都市役所前駅徒歩3分
	京都ブライトンホテル	3	¥13,500	*¥18,500	丸太町駅徒歩10分
	都ホテル	4	¥11,500	*¥16,500	蹴上駅徒歩1分
	ホテル日航プリンセス京都	6	¥11,500	*¥16,500	四条駅徒歩5分
B	京都センチュリーホテル	8	¥10,500	*¥15,500	京都駅中央口側徒歩1分
	京都国際ホテル	9	¥10,500	¥12,000	二条城前駅徒歩3分
	京都全日空ホテル	5	¥11,500	¥13,500	二条城前駅徒歩3分
	新都ホテル	7	¥11,500	¥13,000	京都駅八条口側徒歩3分
	京都ロイヤルホテル	15	¥8,500	¥10,000	京都市役所前駅徒歩3分
	京都東急ホテル	17	¥8,500	¥10,000	五条駅徒歩10分
C	ホテルハーヴェスト京都	10	¥9,800	¥11,800	丸太町駅徒歩1分
	からすま京都ホテル	11	¥9,500	¥10,500	四条駅徒歩3分
	ホリディン京都	14	¥8,500	¥11,000	北大路駅バス8分
	ハートンホテル京都	12	¥8,750	¥9,900	御池駅徒歩2分
	京都パレスサイドホテル	18	¥8,500	¥10,500	丸太町駅徒歩8分
	三条烏丸ホテル	16	¥8,500	¥10,500	御池駅徒歩5分
	ホテル京阪京都	13	¥8,500	¥10,500	京都駅八条口側徒歩2分
	全日空バステル京都	20	¥8,000	¥9,500	御池駅徒歩8分
D	ホテルギンモンド	19	¥8,000	¥9,500	御池駅徒歩2分
	京都ガーデンホテル	26	¥7,500	¥9,000	御池駅徒歩5分
	ホテルサンルート京都	22	¥7,500	¥9,000	五条駅・四条駅徒歩15分
	ホテルオークス京都四条	25	¥7,500	¥8,000	四条駅徒歩8分
	京都プリンスホテル	21	¥8,000	*¥8,500	北大路駅バス10分
	ホテルアルファ京都	24	¥7,500	¥8,500	京都市役所前駅徒歩3分
	京都セントラルイン	23	¥7,500	¥8,000	四条駅徒歩10分
マルコーイン京都	27	¥7,000	¥8,000	四条駅徒歩8分	

* ツインルームのお一人様利用料金

3. お申し込み方法
現金書留の場合：宿泊申込書に必要事項をご記入の上、宿泊予約金（お一人様につき、10,000円）及び通信費（お一人様につき500円）を添えて、現金書留にてご送付下さい。後ほど宿泊確認書を送付いたします。
クレジットカードの場合：宿泊申込書に必要事項及び、カード名、カード番号、有効期限をご記入の上、ご送付下さい。宿泊予約金及び通信費お引き落としの手続き後、宿泊確認書を送付いたします。

4. お申し込みの締め切り日 **1997年 11月 10日（月）**

5. 取り消し料
取り消し及び変更は、書面もしくはFAXにてお早めにご連絡下さい。すべてのご予約をお取り消しされた場合、下記の取り消し料及び通信費を差し引いた残額を後日ご返金いたします。

宿泊日の9日前まで	2日～8日前	前日	当日・不泊
1,000円	宿泊料金（1泊）の20%	80%	100%

6. お申し込み、お問い合わせ先

〒600 京都市下京区東塩小路町 JTB京都支店
「第20回日本分子生物学会」係り（担当：甲斐、上芝原）
TEL: 075-361-7241（月曜～金曜 9:00～17:00）FAX: 075-341-1028

第20回日本分子生物学会

〔 宿 泊 申 込 書 〕

NO. _____

以下の通り申し込みます。

申込日 月 日

代表者氏名	所属
郵便物送付先住所 <input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> 自宅 〒	
TEL: () - FAX: () -	

ふりがな 氏 名	宿 泊 日					第一希望 ホテル	第二希望 ホテル	部屋 タイプ		予約金 (お一人1万円)
	12/15	16	17	18	19			S	T	
-----								S	T	
-----								S		
-----								S	T	
-----								S		
-----								S	T	
-----								S		

S: シングル、T: ツイン
該当する欄に○印をご記入下さい。

通信費	500円 × 名 = _____ 円
合計	_____ 円

希望ホテルは第二希望までお書き下さい。

◇支払方法 現金書留 クレジットカード

私は、支払いを下記カードにて行います。

利用カード会社名 YES JTB カード* VISA ダイナースカード* マスターカード*

UC カード* 日本信販 JCB

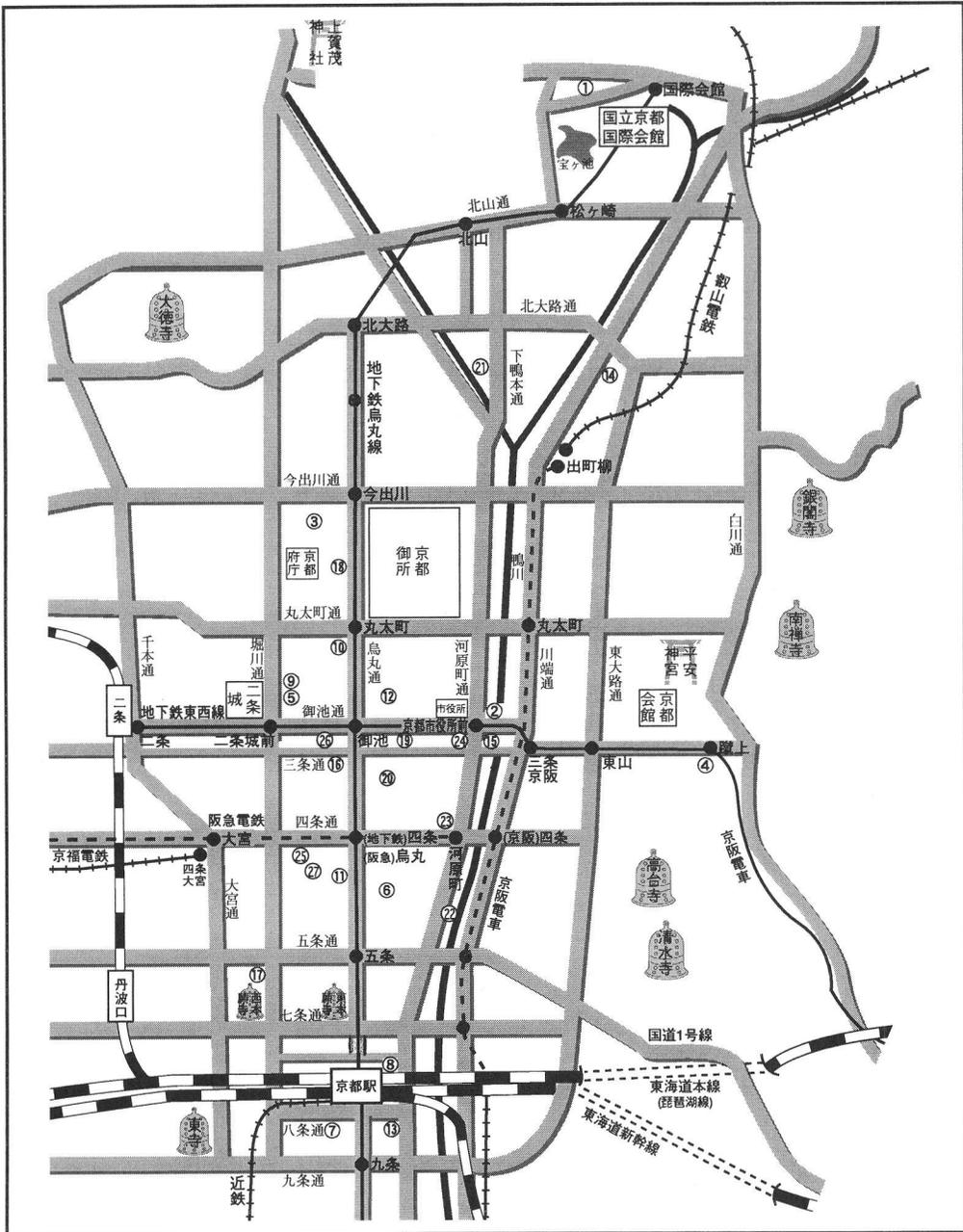
DC カード* ミリオンカード* AMEX

カード番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

カード有効期限 _____ 年 _____ 月

カード使用者名 _____ カード使用者署名 _____



■ ホテルのご案内

- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| ① 京都宝ヶ池プリンスホテル | ② 京都ホテル | ③ 京都ブライトンホテル |
| ④ 都ホテル | ⑤ 京都全日空ホテル | ⑥ ホテル日航プリンセス京都 |
| ⑦ 新都ホテル | ⑧ 京都センチュリーホテル | ⑨ 京都国際ホテル |
| ⑩ ホテルハーヴェスト京都 | ⑪ からすま京都ホテル | ⑫ ハートンホテル京都 |
| ⑬ ホテル京阪京都 | ⑭ ホリデイイン京都 | ⑮ 京都ロイヤルホテル |
| ⑯ 三條烏丸ホテル | ⑰ 京都東急ホテル | ⑱ 京都パレスサイドホテル |
| ⑲ ホテルギンモンド | ⑳ 全日空パステル京都 | ㉑ 京都プリンスホテル |
| ㉒ ホテルサンルート京都 | ㉓ 京都セントラルイン | ㉔ ホテルアルファ京都 |
| ㉕ ホテルオークス京都四条 | ㉖ 京都ガーデンホテル | ㉗ マルコーイン京都 |

◆学会費（年度会費）納入についてのお願い

1. 1997年度分および未納分の学会費を3月中旬にお送りした請求書（郵便振替用紙）により下記の通り納入して下さい。なお、学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書を日本学会事務センター（東京）へ提出して下さい。

正会員学会費 4,500円（ただし、在学証明書を提出したときは 3,000円）

学会費の納入に際しては年会参加費と混同しないようにお願いします。

2. 年会の発表申込には、学会費納入控（または領収書）のコピーを添付することが必要です。発表を希望される方は、学会費納入控（または領収書）を保管しておいて下さい。

◆日本分子生物学会への入会申込みの手順

日本分子生物学会に入会を希望される方は、書面または電話により下記宛お申込み下さい。所定の書式をお送りいたします。なお、年会の演題締切りの時期（7月～8月）は入会者が多く混雑いたしますので、早目の入会手続きをお勧めします。

〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9 学会センター C21

（財）日本学会事務センター・会員業務 日本分子生物学会 係

Tel. (03) 5814-5810 Fax. (03) 5814-5825

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会推薦の研究助成、学術賞について次の方々が採択されました。

1. 第23回（平成8年度）日産学術研究助成：奨励研究
太田 力（国立遺伝学研究所 助手）組換え蛋白質複合体の精製と機能解析
中井 彰（京都大学胸部研 助手）ストレス応答の分子機構の解明
2. 第4回（平成8年度）日産科学賞
坂野 仁（東京大学理学部 教授）リンパ球の分化に伴う遺伝子再編成
3. 第37回（平成8年度）東レ科学技術研究助成
中山敬一（九州大学医学部 教授）神経再生に関する基礎研究と脳移植への応用

また、富沢純一氏を編集長とする雑誌 GENES TO CELLS 第2巻が、第28回（平成8年度分）内藤記念研究成果刊行助成金をうけることになりました。

選考委員会の審査に基づいて、下記の方々を山田科学振興財団1997年度研究援助に推薦いたしました。

浜 千尋（国立精神神経センター神経研究所 室長）シナプス分化を制御する情報伝達経路の解析
内匠 透（神戸大学医学部 講師）生物時計の分子機構の解明

例年、本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞・研究助成を、以下に一覧として掲載します。そのうち応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会の審査によって行います。

応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取り寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物
 - 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
 - 2) 本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）
 - 3) 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出先

日本分子生物学会 選考委員長 饗場弘二
〒464-01 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻
[Fax. (052) 789-3001] 宛

3. 提出期限

財団等の締切の1か月前まで。提出期限後に受け取った場合や、提出書類が不備な場合は選考の対象とならないことがあります。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
第28回三菱財団 自然科学研究助成	(株)三菱財団 ☎(03) 3214-5754 〒100 千代田区丸の内 2-5-2	・総額3億円 30件程度	1997年 2月21日	1件当り2,000万円 まで	自然科学の基礎となる独 創的、かつ先駆的研究と ともに、国際的發展に先 導的役割を担う萌芽とも なる研究(原則として個 人研究)。
新化学発展協会 1997年度研究奨励 金	(株)新化学発展協会 ☎(03) 3294-8031 〒101 千代田区神田駿河 台1-5	7課題、 各課題1件	1997年 3月3日	1件 150万円	新化学の発展に資する若 手研究者(39才以下)の 研究に対して、研究奨励 金を交付。 研究課題有り。
山田科学振興財団 1997年度研究援助	(株)山田科学振興財団 ☎(06) 757-3311 〒544 大阪市生野区巽西 1-8-1	10件程度 (2件)	1997年 3月31日	1件当たり100~ 500万円、総額 4,000万円	自然科学の基礎的研究に 対しての研究費援助。
日本生命財団研究 助成	(株)日本生命財団 ☎(06) 204-4012 〒541 大阪市中央区今橋 3-1-7 日本生命今橋ビル	総額 1億円程度	1997年* 5月19日	申請金額に制限 なし	「人間活動と環境保全と の調和に関する研究—自 然と人間の共生への新し い道を求めて—」の趣旨 に沿った研究のうち、「人 間活動と自然環境との関 係(人間と自然環境の共 存)」関連分野で、かつ 現在および将来の重要課 題。
ファルマシアバイ オテック分子生物学 若手研究者奨学金	ファルマシアバイオテック(株) 本社プロモーション室 ☎(03) 3492-7864 〒141 品川区上大崎 4-5-37 本多電機ビル (応募先) Young Scientist Prize Selection Committee, SCIENCE 1333 H Street, N.W., Room 924, Washin- gton DC 20005, USA	8名以内	1997年 5月31日	最優秀賞金 US\$ 20,000 その他の受賞者 US\$ 5,000	1995年より SCIENCE 誌 との協賛で、学位取得直 後の優秀な若手研究者を 支援するために Pharmacia Biotech & SCIENCE Prize for Scientists in Molecular Biology を設 置。
国際生物学賞	国際生物学賞委員会 ☎(03) 3263-1721 〒102 千代田区麹町5-3-1 ヤマトビル 日本学術振興会内	1件 (1件)	1997年 6月6日	賞状、賞牌 1,000万円	生物学の研究において世 界的に優れた業績を挙げ 、世界の学術進歩に大き な貢献をした研究者 (昨年度、授賞分野は生 殖の生物学)。
第15回研究助成 第14回国内および 海外留学補助金 第14回持田記念学 術賞	(株)持田記念医学薬学振興 財団 ☎(03) 3358-7211 〒160 新宿区四谷1-7	・総額 4,200万円 ・総額 500万円 ・2件以内 (1件)	1997年 6月30日 1997年 6月30日 1997年 7月31日	・1件 100万円 ・1件 50万円 ・1件 300万円	生命科学・薬物科学・情 報科学・生体工学と医療 応用の研究の分野におけ る研究で、顕著な功績が あり、かつ新進気鋭の研 究者。
第24回日産学術研 究助成	(株)日産科学振興財団 ☎(03) 3543-5597 〒104 中央区銀座6-17-2	①一般研究 10件程度 (2件) ②奨励研究 25件程度 (枠なし)	1997年* 8月31日	①1,000万円まで ② 200万円まで	自然科学分野で、それぞ れの研究の成果が学術の 進歩、発展に貢献するこ ろが大きいと思われるも の、新しい研究分野の 開拓に貢献するもので、 45歳以下の研究者および 研究グループ。
第5回日産科学賞		・2件 (1件)		・賞状、メダル 500万円	自然科学分野で、学術文 化の向上発展に大きな貢 献をした満50才未満の研 究者。
笹川科学研究助成	(株)日本科学協会 ☎(03) 3502-1931 〒105 港区虎ノ門1-11-2 第2船橋振興ビル	330件	募集期間 1997年* 9月1日 ~ 10月31日	1件当り100万円ま で	人文学、社会科学および 自然科学(医学を除く)、 または境界領域の研究計 画に関するもの。4月1 日現在、35才以下の若手 研究者へ助成。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
上 原 賞	(財)上原記念生命科学財団 ☎ (03) 3985-3500 〒171 豊島区高田3-25-3	2 件以内 (1 件)	1997年* 9 月10日	金牌 1,000万円	生命科学の栄養学、薬学、基礎および臨床医学、社会医学で顕著な業績を挙げ、引き続き活躍中の研究者。
井 上 学 術 賞	(財)井上科学振興財団 ☎ (03) 3477-2738 〒150 渋谷区猿楽町11-20	5 件以内 (1 件)	1997年 9 月20日	1 件賞状、メダル 200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績を挙げた者(ただし締切日現在満50歳未満)。
木原記念財団学術賞	(財)木原記念横浜生命科学振興財団 ☎ (045) 825-3487 〒244 横浜市戸塚区舞岡町641-12	1 件 (1 件)	1997年* 9 月30日	賞状、記念牌 200万円	最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者で、原則として50才以下の者。
東レ科学技術賞	(財)東レ科学振興会 ☎ (0473) 50-6103 〒279 浦安市美浜1-8-1 東レビル	2 件前後 (2 件)	1997年* 10 月 9 日	1 件 賞状、金メダル 500万円	学術上の業績顕著な者、学術上重要な発見をした者、重要な発明により効果が大きい者、技術上の重要問題を解決し貢献が大きい者。
東レ科学技術研究助成		総額 1億3,000万円 10件程度 (2 件)	1997年* 10 月 9 日	特に定めず最大 3,000万円まで	基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる、独創的、萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者。
第29回科学振興賞	(財)内藤記念科学振興財団 ☎ (03) 3813-3005 〒113 文京区本郷3-42-6 NKD ビル 8階	1 件 (1 件)	1997年 11 月10日	正賞、金メダル 300万円	人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、なかんずく疾病の予防と治療に関する独創的テーマに取り組み、自然科学の進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。
第29回海外学者招聘助成金		前後期各総額 500万円 (1 件)	1997年 7 月10日 11 月10日	1 件 50万円まで	同上のテーマに取り組み、国際的に高い評価を得ている外国の研究者。
ブレインサイエンス財団研究助成	(財)ブレインサイエンス振興財団 ☎ (03) 3273-2565 〒104 中央区八重洲 2-6-20	・ 8 件 (1 件)	1997年* 11 月29日	・ 1 件 80万円	ブレインサイエンス研究分野(脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域)において独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者、単独または共同研究も可。
塚原仲晃記念賞		・ 1 件 (1 件)		・ 1 件 100万円	
研 究 助 成	(財)長瀬科学技術振興財団 ☎ (06) 535-2117 〒550 大阪市西区新町 1-1-17	・ 10 数件	1997年* 12 月15日	・ 1 件 250万円程度	生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関。
国 際 交 流 助 成		・ 10 件程度	1997年* 12 月15日	・ 1 件 50万円程度	生化学および有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣または招聘(除く留学)。
海外派遣研究助成	(財)ブレインサイエンス振興財団 ☎ (03) 3273-2565 〒104 中央区八重洲 2-6-20	・ 総額 120万円 (1 件)	1998年* 1 月17日	・ 1 件 30万円まで	ブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは研究者の派遣を助成。
海外研究者招聘助成		・ 総額 100万円 (1 件)		・ 1 件 30万円まで	同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。

() 内は、応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合本学会よりの推進枠を示しています。

*は、本年度の案内を受取っておらず、昨年締切日を参考に示してあります。

○ノーベル賞の国スウェーデンからの若い分子生物学研究者支援制度

ファルマシアバイオテックは、SCIENCE 誌との協賛で、学位取得直後の優秀な若手研究者を支援するために Pharmacia Biotech & SCIENCE Prize for Young Scientists in Molecular Biology を始めてから今年で3年目になりました。1997年も分子生物学分野で特に優れた業績を挙げた若手研究者を博士号学位論文に関するエッセイによって選考します。授賞式は1997年12月にストックホルムで開催され、受賞エッセイは SCIENCE 誌に掲載されます。

1. 応募資格

1996年に分子生物学分野の研究で博士号を取得した方(国籍、所属、性別、年齢不問)。

2. 応募方法

日、英、仏、独、中またはスペイン語で記載した以下の応募書類を提出すること。

- 1) 学位論文に関し、特に分子生物学進展への貢献度に主眼をおいて、応募者本人が書いた1,000単語(日本語の場合は3,000字)以内のエッセイ
- 2) 学位論文の要旨(ダブルスペースで4ページ以内)
- 3) 論文指導教授または論文審査委員1名による応募者本人とその研究の意義に関する1ページの推薦状
- 4) 以下の情報についてタイプアップしたリスト
 - ①学位論文研究に基づいた全ての出版済みおよび in press 論文のリスト。Title, author を含む全記載事項を順序よく記載すること。

②応募者の受賞リスト (academic and professional awards and honors) (もしあれば)

③応募者の研究経歴 (職業、学会発表等)

- 5) 規定の応募用紙に全必要事項を記入したものの Internet の Entry Form (<http://www.aaas.org/science/prize.htm>) でも申込み可能。

3. 応募先

1997年5月31日までに下記に郵送到着のこと。
Young Scientist Prize Selection Committee,
SCIENCE Room 1044, 1200 New York Avenue, NW,
Washington, DC 20005, USA

4. 選考

学位取得施設所在地によって、北米、ヨーロッパ、日本、その他の4地域に分け、各地域から1~2名の受賞者、その中から最優秀者1名を選考します。

最優秀賞金はUS\$20,000、その他の全受賞者にUS\$5,000が授与され、最優秀エッセイは SCIENCE 誌に掲載されます。また、全受賞者を1997年12月上旬にファルマシアバイオテックの本社があるスウェーデンで開催される授賞式に招待します。同時期に開催されるノーベル賞授賞式の関連行事にも招待する予定です。

5. 問合せおよび応募資料請求先

ファルマシアバイオテック(株) (担当:今西)
Tel. (03) 3492-7864, Fax. (03) 3492-9482

○財団法人 持田記念医学薬学振興財団

第15回 (1997年度) 研究助成金, 第14回 (1997年度) 国内および海外留学補助金

研究助成金募集要項

1. 助成の趣旨

- 1) 生命科学与医療応用の研究
- 2) 薬物科学与医療応用の研究
- 3) 情報科学与医療応用の研究
- 4) 生体工学と医療応用の研究

上記の研究を助成し、もってわが国の医療および国民の保健の向上に資することを目的とする。

2. 助成対象

下記の研究対象の領域に属する研究を国内において行い、所属する施設の主任教授、学部長あるいは施設長等の推薦を受けた者。

- 1) 生命科学与医療応用の研究
 - ①バイオテクノロジーにより産生されるヒトに対して生理活性を有する物質に関する研究
 - ②免疫制御機構に関する研究 (老化、免疫低下等を含む)
- 2) 薬物科学与医療応用の研究
 - ①薬物設計の研究
 - ②薬物送達の研究
- 3) 情報科学与医療応用の研究
循環器疾患の本態解明に関する情報科学
- 4) 生体工学と医療応用の研究
 - ①心臓疾患の治療制御に関する研究
 - ②粒子線による診断と治療の研究

3. 研究助成金額

総額4,200万円 (1件につき100万円)

4. 研究助成金交付の対象となる経費

研究に要する物品の購入費用その他研究推進に必要な

費用とする。

留学補助金募集要項

1. 補助対象

前記の研究助成金の趣旨と同じ研究を行い、所属する施設の主任教授、学部長あるいは施設長等の推薦を受け、1997年4月1日より1998年3月31日の間に開始し、期間1年以上の国内および海外留学を行う者。

2. 補助金額 総額500万円 (1件につき50万円)

3. 補助金交付の対象となる経費

本人の渡航費・滞在費

4. その他

受入機関の承諾書等の写しを添付のこと (A4 サイズ)。

研究助成金および留学補助金共通事項

1. 応募方法

所定用紙に必要事項を記入し、住所、氏名を記入した採否通知返信用封筒 (長4サイズ) を添えて「書留郵便」で当財団宛送付する。

2. 締切

1997年6月30日 (月) 当日の消印有効

3. 選考方法

選考委員会より1997年9月下旬に選考、理事会で決定

4. 採否通知

1997年11月上旬に応募者と推薦者宛文書で通知

5. 助成金交付

1997年11月上旬に贈呈

6. その他

1) 1994年度以降の研究助成金等贈呈者は、本年度の応募受付対象者としな

- 2) 応募者の年齢は満45歳未満(1952年7月1日以降に生まれた方)とする。
7. 所定用紙(申請書)請求手続きについて
申請書の区分、送付先住所、氏名、〒、TELを記入の上、ハガキでお申込み下さい(応募には、未記入の

- 当年度所定用紙を複写し用いてもよい)。
8. 申請書提出先および問合先
(財)持田記念医学薬学振興財団
〒160 東京都新宿区四谷1-7
Tel. (03) 3358-7211 (内線562, 563)

○第14回(1997年度)持田記念学術賞候補者の推薦 (Academic Award of the Mochida Memorial Foundation)

1. 学術賞の対象

当財団は、生命科学を中心とする医学、薬学およびこれらに関連する物理学、化学、工学等の先見的、独創的研究を育成し、かつこれらの成果を総合して医療に応用し、わが国の医療および国民の保健向上に資することを目的としておりますが、その一環として次の4項目の分野における研究で、顕著な功績があり、かつ新進気鋭の研究者に持田記念学術賞を贈呈しております。

- 1) 生命科学と医療応用の研究
- 2) 薬物科学と医療応用の研究

- 3) 情報科学と医療応用の研究
- 4) 生体工学と医療応用の研究

2. 褒賞金総額 300万円ずつ(2件以内)
3. 候補推薦件数 1推薦者から1件
4. 推薦方法

推薦書に必要事項を記入し、当財団宛送付する。

5. 締切期日 1997年7月31日(木)当日の消印有効
6. 選考方法 1997年9月に選考、当財団理事会で決定
7. 褒賞金の贈呈 1997年11月

○第14回(1997年度)井上学術賞受賞候補者推薦

1. 候補者の対象

自然科学の基礎的研究で、特に顕著な業績を挙げた研究者(ただし、年齢が1997年9月20日現在で50歳未満の研究者に限る)。

2. 学術賞

本賞：賞状および金メダル 副賞：200万円
(授賞件数は5件以内)

授賞者は、原則として1件につき1人とし、特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示して下さい。ただし、この場合においても1件として取り扱います。

3. 推薦件数

各推薦学会または各推薦者から原則としてそれぞれ1件。

4. 提出方法

所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、写し2部を添えて(計3部を)当財団宛に提出。

5. 締切期日 1997年9月20日(土)

6. 選考方法

当財団の選考委員会において選考、理事会にて決定

7. 学術賞の贈呈

1998年2月4日(水)の予定
(選考の結果は、1997年12月中旬に推薦者に通知)

8. 推薦書提出先および連絡先

(財)井上科学振興財団

〒150 東京都渋谷区猿樂町11-20

Tel. (03) 3477-2738 Fax. (03) 3477-2747

○第29回(1997年度前期・後期)内藤記念海外学者招へい助成金の推薦

1. テーマおよび候補者

人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、なかんずく疾病の予防と治療に関する独創的テーマに意欲的に取り組み、国際的に高い評価を得ている外国の研究者。ただし、助成金はその外国の研究者を招へいする受入れ責任者に贈呈するものとする。

2. 招へいの時期

前期……1997年10月1日～1998年6月30日の間に外国の研究者を招へいするもの。

後期……1998年4月1日～1998年12月31日の間に外国の研究者を招へいするもの。

3. 予算および助成額

- 1) 本年度の海外学者招へい助成金の予算は前期・後期とも500万円が計上されている。
- 2) 1件は往復の航空料金または滞在費として50万円までとする。

4. 推薦者

- 1) 総合大学の学部においては学部長、大学院においては研究科長、研究所においては研究所長とし、単

科大学においては学長とする。大学以外の場合には、当財団の理事会が承認した研究機関の代表責任者とする。

- 2) 当財団の理事会が定めた基礎的領域の27学会の代表者とする。

- 3) 当財団の役員および評議員とする。

5. 推薦件数

前期・後期とも1推薦者から各1件に限る。

6. 推薦方法

所定の用紙に必要事項を記入し、当財団宛送付する。(その複写用紙を使用してもよい)

7. 推薦締切日 前期……1997年7月10日(木)

後期……1997年11月10日(月)

(昨年より10日早くなっています)

8. 選考方法

選考委員会を設けて1997年9月上旬、ならびに1997年12月下旬に選考し、評議員会の同意を求め、理事会で決定する。なお、同一の学会等に招へいする候補が複数申請された場合には、採択は1件以内とする。

9. 採否通知

前期は1997年10月上旬に、後期は1998年2月上旬に推薦者宛採否を報知する。

10. 助成金の交付

助成決定者に対しては、前期は1997年10月下旬より、後期は1998年2月下旬より、必要に応じて受入れ責任者に内藤記念海外学者招へい助成金を送呈する。ただし、これの贈呈式は1998年3月中旬に挙行するものとする。

11. 助成金の使途

外国人研究者招へいの助成金は、推薦記載通りに使用することを原則。万一途中で使途を変更する場合、その旨あらかじめ申し出て当財団の承認を得ること。

12. 推薦書提出先および連絡先

(財)内藤記念科学振興財団

〒113 東京都文京区本郷3-42-6 NKDビル8階

Tel. (03)3813-3005 (直通) Fax. (03)3811-2917

○第29回(1997年度)内藤記念科学振興賞受賞候補者の推薦

1. テーマおよび候補者

1) 人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、なかならず疾病の予防と治療に関する独創的テーマに取り組み、自然科学の進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。

2) 主たる研究者は原則として単独とするが、異なる研究グループによる協同研究の場合には、連名であってもよい。この場合は、その旨を推薦書に明記する。

3) 候補者の再度の推薦も差しつかえない。

2. 推薦依頼先

1) 日本分子生物学会、他26学会

2) 当財団の役員および評議員

3) 候補推薦件数 1推薦者から1件に限る。

4. 褒賞金額

第29回(1997年度)内藤記念科学振興賞(褒賞)1件
正賞・金メダルならびに副賞・300万円を贈呈。

5. 推薦方法

所定(別紙)の用紙に必要事項を記入し、当財団宛送付する。

6. 推薦書締切日 1997年11月10日(月)必着
(昨年より10日早くなっています)

7. 選考方法

選考委員会を設けて1997年12月下旬に選考し、評議員会の同意を求め理事会で決定

8. 受賞者決定の報告

1998年2月上旬に推薦者宛採否を報告する。

9. 褒賞の贈呈

褒賞決定者に対しては、1998年3月上旬に内藤記念科学振興賞を贈呈する。

10. 推薦書提出先および連絡先

(財)内藤記念科学振興財団

〒113 東京都文京区本郷3-42-6 NKDビル8階

Tel. (03)3813-3005 (直通) Fax. (03)3811-2917

◆各種シンポジウム、講習会のお知らせ

○千里ライフサイエンス技術講習会 第11回 「等電点差異に基づくタンパク質分離方法」

日時 1997年6月26日(木) 13:00~17:00

会場 千里ライフサイエンスセンタービル6階

(豊中市新千里東町1-4-2)

主催 (財)千里ライフサイエンス振興財団

後援 ファルマシアバイオテック(株)

協賛 (株)千里ライフサイエンスセンター

内容

1. 固定化pHグラジエントゲル(Immobiline)を用いた等電点電気泳動の原理と応用

宮崎 昭(ファルマシアバイオテック(株))

2. pH勾配によりタンパク質を分離するカラムクロマトグラフィー(クロマトフォーカシング法)

浜野真城(ファルマシアバイオテック(株))

3. サンプル分取を目的とした等電点電気泳動法

早野雅子(ファルマシアバイオテック(株))

定員 30名(先着順)

受講料 3,000円

申込方法

氏名、勤務先、所属、役職、所在地、〒、TEL、FAXを明記の上、郵便またはFAXで下記宛お申込み下さい。受講料は申込後に住友銀行千里中央支店(普通預金、128278、財団法人千里ライフサイエンス振興財団)にお振込み下さい。なお申込者名の前にG11とご記入下さい。確認次第、領収書兼参加証を送付します。

申込先 (財)千里ライフサイエンス振興財団

技術講習会係

〒565 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

Tel. (06) 873-2001, Fax. (06) 873-2002

○千里ライフサイエンスセミナー

「細胞の老化と不死化(染色体・テロメアを中心に)」

日時 1997年7月18日(金) 10:00~17:00

会場 千里ライフサイエンスセンタービル5階

ライフホール

(豊中市新千里東町1-4-2)

主催 (財)千里ライフサイエンス振興財団

協賛 (株)千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ 井出利憲(広島大・医教授)

プログラム

1. 細胞の老化と不死化に関わる遺伝子群

押村光雄(鳥取大・医教授)

2. 細胞の老化と不死化の分子メカニズム

一転写抑制性核内構造の関与

今井真一郎(慶応大・医助手)

3. 遺伝性早老症ウエルナー症の原因遺伝子と作用メカ

- ニズム 杉本正信 (㈱エイジーン研 主任研究員)
4. 減数分裂期の染色体構造とテロメア
平岡 泰 (郵政省通信総研 室長)
 5. 哺乳類テロメラーゼ蛋白質 TLP1
石川冬木 (東京工大・生命理工 助教授)
 6. ヒト癌とテロメア・テロメラーゼ
檜山英三 (広島大・医 講師)

参加費 (講演要旨集含む)

- | | |
|---------------------------|----------|
| 会員 (ただし、大学、官公庁、主催・協賛団体会員) | : 6,000円 |
| 非会員 | : 8,000円 |
| 学生 | : 3,000円 |
| 定員 300名 | |

参加申込方法

氏名、勤務先、所属、役職名、所在地、〒、TEL、FAX を明記の上、郵便または FAX で下記宛お申込み下さい。参加費は申込後に住友銀行千里中央支店 (普通預金、128278、財団法人千里ライフサイエンス振興財団) にお振込み下さい。なお振込の際、振込者名の前に L1 とご記入下さい。ご送金確認次第、領取書兼参加証を送付します。

申込先 (財)千里ライフサイエンス振興財団
セミナー係 (担当: 井関)
〒565 豊中市新千里東町 1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル 8 階
Tel. (06) 873-2001, Fax. (06) 873-2002

○第17回 札幌がんセミナー国際シンポジウム

会期: 1997年7月8日(火)~10日(木)
会場: 北海道大学百年記念会館 (札幌市)
テーマ: 「癌制御における細胞骨格と G 蛋白質」
参加費: 一般 20,000円、学生 10,000円
プログラム (Topics and Speakers):

- 7月8日(火)
 1. Actomyosin and cancer regulation
Stossel T (Boston), Baehler M (Tuebingen),
Ben-Ze'ev A (Rehovot), Takenawa T (Tokyo),
Kuzumaki N (Sapporo)
 2. Adhesive molecules and cancer regulation
Polakis P (Richmond), Akiyama T (Osaka),
Fearon ER (Ann Arbor), Tsukita S (Kyoto),
Hirohashi S (Tokyo), Oyamada M,
Mori M (Sapporo)
 - 7月9日(水)
 3. RHO family proteins and cancer regulation
Hall A (London), Narumiya S (Kyoto),
Takai Y (Osaka), Kaibuchi K (Ikoma),
Mabuchi I (Tokyo)
 4. RAS signal transduction and cytoskeleton

Downward J (London), Kataoka T (Kobe),
Nishida E (Kyoto)

5. Poster discussion
7月10日(木)
6. Development of new anti-cancer drugs
Gibbs JB (West Point), Kumar CC (Kenilworth),
Maruta H (Melbourne), Yoshida M (Tokyo),
Saijo N (Tokyo), Nishimura S (Tsukuba)
招待講演以外に公募によるポスター発表 (申込締切 5月10日) も行います。詳細は下記連絡先に資料をご請求下さい。

連絡先

北海道大学医学部癌研究施設遺伝子制御部門
葛巻 暹 (代表世話人)
〒060 札幌市北区北15条西7丁目
Fax.(011) 706-7869, Tel.(011) 716-2111 (5020)
E-mail: kuzumaki@med.hokudai.ac.jp
または
(財)札幌がんセミナー
〒060 札幌市中央区大通西6丁目
Fax.(011) 222-1526, Tel.(011) 222-1506

○第12回 生体成分の分析化学シンポジウム

(<http://neo.pharm.hiroshima-u.ac.jp/sympo/>)

会期 1997年8月21日(木)、22日(金)
会場 広島プリンスホテル (広島市南区元字品)
主催 日本薬学会
後援 日本分子生物学会、広島県、広島市

基本テーマ「21世紀へ、生体分析化学のアプローチ」

1. 医薬品開発と分析化学・情報解析
2. 臨床と分析化学
3. バイオテクノロジーと分析化学
4. 生体機能の解明と分析化学
5. 生体分析化学適用の新分野
6. 21世紀への新しい生体成分分析・解析手法、他
21世紀へのライフサイエンスおよび医療における分析・解析研究を展望するために、広い関係研究分野の方々のご参加を期待します。さらに、それぞれの分野で、ミニ総説的なセッションテーマとワークショップを設けています。詳しくは WWW ホームページをご覧ください

くさんの「ポイント総説的発表(既発表内容を含んで可)」をご投稿下さい。さらに、全員会場宿泊にて、懇親会・ナイトセッションが企画されています。

シンポジウム参加費

参加登録、宿泊 (2日目朝、昼食付)、懇親会費、全て一括込みです。一般: 21,000~23,000円、学生: 17,000~20,000円 (部屋タイプによります)

申込締切日以後は、参加費が一律3,000円高となります。参加および発表申込締切 1997年5月15日(木)

要旨締切 1997年6月15日(日)

連絡先 広島大学医学部総合薬学科 升島 努

〒734 広島市南区霞 1-2-3
Tel.(082) 257-5302, Fax.(082) 257-5304
E-mail:sympo@pharm.hiroshima-u.ac.jp

併設して開催される、Analytical BioSciences のインターネット国際会議については、ホームページ (<http://neo.pharm.hiroshima-u.ac.jp/ccab/>) をご覧下さい。

○International Cyber Congress on Analytical BioSciences (CCAB) 1997

(アナリティカル・バイオサイエンスに関するインターネット国際会議1997)

会期 1997年8月21日(木)～31日(日)

主催 CCAB 実行委員会

後援 日本薬学会、日本分子生物学会、
広島県、広島市

WWW サイト

<http://neo.pharm.hiroshima-u.ac.jp/ccab/>

生体の分析・解析手法、解析機器のめざましい進展は、今日のバイオサイエンスの進展の鍵であると考えられます。最近のアナリティカル・バイオサイエンスの研究成果を討議し合い、将来のバイオサイエンスの方向性を、このインターネット国際会議で展望するのが狙いです。広い分野からの多くの研究者の積極的なご参加をお待ちしています。なお、会議中、世界中の企業のホームページをリンクした Cyber 展示場も設置される予定です。

「論文投稿」は、オンライン(文章はテキストファイル、図はJPEGかGIFフォーマットに圧縮したもの)でも、ディスクットの送付(図などは、原稿の添付でも可)で

も受付し、学会後、プロシーディングスを発刊します。
参加費

無料(参加申込みホームページの上で行って戴きます)

投稿締切 1997年6月25日(水) 必着

(ディスクットと図原稿での投稿)

1997年7月10日(木) 必着

(オンライン投稿)

詳しいことは、インターネットホームページ(<http://neo.pharm.hiroshima-u.ac.jp/ccab/>)をご覧ください。本国際会議の詳しい内容や、最新情報、論文発表の仕方なども掲載されています。

連絡・原稿送付先

広島大学医学部総合薬学科

CCAB 事務局 升島 努

〒734 広島市南区霞 1-2-3

Tel.(082) 257-5302, Fax.(082) 257-5304

E-mail:ccab@pharm.hiroshima-u.ac.jp.

○第70回 日本生化学会大会

会期 1997年9月22日(月)～25日(木)

会場 金沢大学角間キャンパス(金沢市角間町)、他

一般講演申込締切 1997年5月2日(金)

参加登録締切 1997年7月31日(木)

参加登録費

事前登録 6,000円 当日登録 8,000円

特別講演予定演者

James E. Darnell, Jr. (アメリカ) Michael Glunstein

(アメリカ) Gregory A. Petsko (アメリカ)

シンポジウムテーマ

1. テロメアの生物学 2. アラキドン酸カスケードと生理活性脂質 3. 生体異物排出蛋白の分子機構 4. 神経回路パターンの形成機構 5. 発生工学手法によるヒト疾患モデル 6. 糖尿病の分子機構—多面的アプローチ 7. C型肝炎ウイルスと肝癌 8. ニューロン死を制御するグリア細胞因子の解析 9. 遺伝子修復における構造生物学 10. セリン・スレオニンキナーゼの構造・機能とその制御 11. 細胞外マトリックス・インテグリン系のシグナル伝達と細胞機能 12. 生体超分子システムの分子機構と遺伝子制御 13. 血管新

生メカニズムと病態 14. 受容体、イオンチャンネルとトランスポーターの分子機構と機能協関 15. プロテアーゼと病態—病因解析から創薬、治療を目指して 16. がん抑制遺伝子産物の生理機能 17. 植物の two-component system 18. Catalytic RNA 19. 分化モデルとしての骨格系細胞 20. 金属蛋白質の高次構造と機能抑制

この他、サテライト・シンポジウム“Challenge of Gene Technology to Medicine”や、生化学若い研究者の自主企画による討論会も予定されています。なお、一般講演は本学会員に限りまので、未入会者は下記まで入会申込をお済ませ下さい。

入会申込先

(社)日本生化学会

〒113 文京区本郷 5-25-16 石川ビル 3階

Tel.(03) 3815-1913

大会連絡先

第70回 日本生化学会大会事務局

〒920 金沢市宝町13-1 金沢大学薬学部内

Tel.(0762) 34-4480 (Fax 兼)

○第2回 構造生物学シンポジウム

主催 構造生物学シンポジウム世話人会

共催 日本分子生物学会、日本生物物理学会、日本化学会、日本生化学会、日本薬学会、日本蛋白質学会

会期 1997年10月8日(水)、9日(木)

会場 千里ライフサイエンスセンター

(豊中市新千里東町1-4-2)

発表申込締切 7月1日(火)

予稿原稿締切 8月29日(金)

討論主題 生物機能を説明する分子認識と超分子構造
発表形式

講演時間20～25分(討論時間を含む)、その他 G. Varani 博士(MRC)と J. Johnson 博士(スクリップス研)による特別講演を予定。

発表申込方法

構造生物学シンポジウム申込と明記の上、①講演題目、②発表者氏名、③所属、④100～200字の講演概要、⑤連絡先を記し、下記宛にお申込み下さい。

参加登録費 1,000円(当日1,500円)

講演要旨集代 2,200円(郵送料含む)(当日2,500円)

懇親会(10月8日(水) 18:00～)会費

一般 5,000円(当日6,000円)、学生3,000円(当日

4,000円)

参加登録予約申込

支払者氏名、費目を明記の上、9月20日までに、住友銀行豊中支店(普通預金、1798836、構造生物学シンポジウム 京極好正)にお振込みいただくか、または現金書

留でお送り下さい。

申込先 大阪大学蛋白質研究所 京極好正

〒565 吹田市山田丘3-2

Tel.(06) 879-8597 Fax.(06) 879-8599

E-mail:kyogoku@protein.osaka-u.ac.jp

○第13回 東京都神経研国際シンポジウム

神経と免疫のシグナリング

(Kinases and Phosphatases in Lymphocyte and Neuronal Signaling)

会期 1997年10月15日(水)~17日(金)

会場 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

(千代田区九段北4-2-25)

予定演者

Joseph Schlessinger, Nick Tonks, Jeanne Stuckey, Ben Neel, Eisuke Nishida, Stephen Keyse, Art Weiss, Gary Koretzky, Takashi Saito, Denis Alexander, Burkhardt Schraven, John Cambier, Hidetaka Yakura, Takeshi Watanabe, Matt Thomas, Michel Tremblay, Ken-ichi Arai, Anjana Rao, Kohei Miyazono, Mariano Barbacid, David Ginty, Edmund Hoppe, Haruo Saito, Martijn Gebbink, Hideki Matsui, Shirish Shenolikar, Tadashi Yamamoto, Eishichi Miyamoto, Eva-Maria Mandelkow, Koichi Ishiguro

ポスターセッション

シンポジウムの内容は、Springer Verlag から10月10日

に出版する予定です。参加希望者は、下記までお知らせ下さい。原稿作成要領をお送りします(原稿締切5月16日)。なお、ポスターの中から数題をショートプレゼンテーションとする予定です。

参加登録

事前登録が必要になります(締切7月31日)。

詳細は下記にお問合せ下さい。

問合先

東京都神経科学総合研究所 調査課

〒183 府中市武蔵台2-6

Tel.(0423) 25-3881 (4104), Fax.(0423) 21-8678

E-mail:chosa@tmin.ac.jp

<http://www.tmin.ac.jp/>

実行委員長 矢倉英隆(微生物学・免疫学研究部門)

Tel.(0423) 25-3881 (4606)

e-mail:yakura@tmin.ac.jp

○第6回 日本バイオイメーキング学会学術集会

会期 1997年10月23日(木)、24日(金)

会場 東京大学山上会館(文京区本郷7-3-1)

主題

1. 生体の動きのリアルタイムでの視覚化
2. 細胞内分子の動的変化、代謝・エネルギー変換の視覚化
3. 生体分子の物理化学的性質の解析画像
4. 分子のモデリングとドラッグデザイン
5. 細胞・組織・臓器の形態と機能を見る画像計測・画像解析法
6. バイオイメーキングのための3次元構築と立体視
7. テレサイエンスとバイオイメーキング
8. その他、生体画像処理・生体画像計測

以上に関する特別講演と一般講演を行います。一般講演を広く募集いたしますので、ふるってご応募下さい。

講演申込締切 1997年7月15日(火)

講演要旨締切 1997年8月31日(日)

講演申込参加申込方法

右記申込先へ郵便、FAX、E-mail、TELにてお申込み

下さい。郵便、FAX、E-mailの場合は講演題目、発表者、登壇者、所属を明記して下さい。日本バイオイメーキング学会会員の方は会報にある講演申込用紙をご利用下さい。参加のみの場合は当日会場にて受け付けます。参加費(要旨集代を含む)

4,000円(会員)、2,000円(学生)、6,000円(非会員)

懇親会費 4,000円(10月23日18:00より)

申込・連絡先

日本バイオイメーキング学会学術集会大会長 脊山洋右

東京大学医学部栄養学教室

〒113 文京区本郷7-3-1

Tel.(03) 3812-2111 (3495), Fax.(03) 5689-2704

E-mail:yousuke@m.u-tokyo.ac.jp

URL:<http://m.u-tokyo.ac.jp/bioimage/index.html>

上記連絡不可の場合は

学会事務局:鈴木和男

国立予防衛生研究所

〒162 新宿区戸山1-23-1

Tel.(03) 5285-1111 (2329), Fax.(03) 5285-1160

○第7回 アンチセンスシンポジウム

会期 1997年11月21日(金)~22日(土)

会場 幕張メッセ国際会議場

(千葉市美浜区中瀬2-1)

主催 アンチセンスDNA/RNA研究会

共催 日本分子生物学会、他

発表申込締切 1997年7月1日(火)

予稿原稿締切 1997年10月20日(月)

参加登録予約申込締切 1997年11月1日(土)

発表内容

アンチセンス分子による治療法、アンチセンス分子の設計、DDS関係の開発(遺伝子の細胞への導入)、発現系の構築、その他アンチセンスに関する広範囲のテーマを

討論します。特別講演、一般講演（口頭発表で講演、討論を含め20分程度）、ポスター発表。討論を目的としておりますので既発表の内容を含んでも差し支えありません。

発表申込方法

A5判大の用紙に①演題、②所属、③氏名、④連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail）、⑤200字程度の要旨、⑥希望の発表形式を明記し、下記の連絡先まで郵便でお申込み下さい。なお、発表形式、プログラム編成等については世話人会にご一任下さい。

予稿原稿 詳細は申込者に連絡します。

参加登録費

事前登録：一般 3,000円 学生 1,500円

当日登録：一般 4,000円 学生 2,500円

懇親会

11月21日（金）18時より幕張メッセ国際会議場内にて開

催します。参加費は、一般5,000円、学生2,500円。原則として予約制とします。参加登録時にお申込み下さい。

参加登録予約申込方法

氏名、所属、連絡先（住所、TEL、FAX）を明記のうえ、郵便またはFAXにて下記宛へお申込み下さい。参加費は申込みと同時に、東京三菱銀行船橋支店（普通預金、0828601、第7回アンチセンスシンポジウム）にお振込み下さい。

申込先

第7回アンチセンスシンポジウム事務局

〒275 習志野市津田沼 2-17-1

千葉工業大学・工業化学科内

Tel.(0474) 78-0407（高久）、0474-78-0422（高井）

Fax.(0474) 71-8764

E-mail:hiroshi@miida.cs.it-chiba.ac.jp

takai@cc.it-chiba.ac.jp (Kazuyuki Takai)

GENES TO CELLS 既刊号 Table of Contents

Vol. 1, No. 1

- T. Honjo** The shortest path from the surface to the nucleus: RBP-J κ /Su(H) transcription factor. (Review)
- W.J. Gehring** The master control gene for morphogenesis and evolution of the eye. (Review)
- J. Roca & J.C. Wang** The probabilities of supercoil removal and decatenation by yeast DNA topoisomerase II.
- K. Kinoshita, T. Nemoto, K. Nabeshima, H. Kondoh, H. Niwa & M. Yanagida** The regulatory subunits of fission yeast protein phosphatase 2A (PP2A) affect cell morphogenesis, cell wall synthesis and cytokinesis.
- M. Yamaguchi, F. Hirose & A. Matsukage**
Roles of multiple promoter elements of the proliferating cell nuclear antigen gene during *Drosophila* development.
- H. Sasaki & B.L.M. Hogan** Enhancer analysis of the mouse *HNF-3 β* gene: regulatory elements for node/notochord and floor plate are independent and consist of multiple sub-elements.
- K. Moriyama, K. Iida & I. Yahara** Phosphorylation of Ser-3 of cofilin regulates its essential function on actin.
- M. Okanami, T. Meshi, H. Tamai & M. Iwabuchi** HALF-1, a bZIP-type protein interacting with the wheat transcription factor HBP-1a, contains a novel transcriptional activation domain.
- N. Yao, J. Turner, Z. Kelman, P.T. Stukenberg, F. Dean, D. Shechter, Z.-Q. Pan, J. Hurwitz & M. O'Donnell**
Clamp loading, unloading and intrinsic stability of the PCNA, β and gp45 sliding clamps of human, *E. coli* and T4 replicases.
- T. Kimura, Y. Kadokawa, H. Harada, M. Matsumoto, M. Sato, Y. Kashiwazaki, M. Tarutani, R.S.-P. Tan, T. Takasugi, T. Matsuyama, T.W. Mak, S. Noguchi, & T. Taniguchi** Essential and non-redundant roles of p48 (ISGF3 γ) and IRF-1 in both type I and type II interferon responses, as revealed by gene targeting studies.
- N.D. Mazarakis, N. Yannoutsos, J.N. El-Jabbour, W. Hatton, R. Fletcher & F. Grosveld**
Neurocristopathy resembling neurofibromatosis type 1 in an NGF-SV40 transgenic line.
-

Vol. 1, No. 2

- M. Sekiguchi** MutT-related error avoidance mechanism for DNA synthesis. (Review)
- K. Neef & T. Hunter** Vertebrate non-receptor protein-tyrosine kinase families. (Review)
- J.-P. Etchegaray, P.G. Jones & M. Inouye**
Differential thermoregulation of two highly homologous cold-shock genes, *ospA* and *ospB*, of *Escherichia coli*.
- T. Aki, H. Choy & S. Adhya** Histone-like protein HU as a specific transcriptional regulator: co-factor role in repression of *gal* transcription by GAL repressor.
- D.K. Chatteraj, R. Ghirlando, K. Park, J.A. Dibbens & M.S. Lewis**
Dissociation kinetics of RepA dimers: implications for mechanisms of activation of DNA binding by chaperones.
- S. Kishigami & K. Ito**
Roles of cysteine residues of DsbB in its activity to reoxidize DsbA, the protein disulphid bond catalyst of *Escherichia coli*.
- J.C.G. Blanco, A. Dey, M. Leid, S. Minucci, B.-K. Park, P.W. Jurutka, M.R. Haussler & K. Ozato**
Inhibition of ligand induced promoter occupancy *in vivo* by a dominant negative RXR.
- H. Motohashi, K. Igarashi, K. Onodera, S. Takahashi, H. Ohtani, M. Nakafuku, M. Nishizawa, J.D. Engel & M. Yamamoto** Mesodermal-vs. neuronal-specific expression of mafK is elicited by different promoters.
- Y. Saijoh, H. Fujii, C. Meno, M. Sato, Y. Hirota, S. Nagamatsu, M. Ikeda & H. Hamada**
Identification of putative downstream genes of Oct-3, a pluripotent cell-specific transcription factor.
- H. Yamaguchi, A. Aiba, K. Nakamura, K. Nakao, H. Sakagami, K. Goto, H. Kondo & M. Katsuki**
Dopamine D2 receptor plays a critical role in cell proliferation and proopiomelanocortin expression in the pituitary.
-

Vol. 1, No. 3

- M. Gellert** A new view of V(D)J recombination. (Review)
- T. Yura** Regulation and conservation of the heat-shock transcription factor σ^{32} . (Review)
- J.C. Connelly & D.R.F. Leach**
The *sbcC* and *sbcD* genes of *Escherichia coli* encode a nuclease involved in palindrome inviability and genetic recombination.
- T. Inada, K. Kimata & H. Aiba**
Mechanism responsible for glucose-lactose diauxie in *Escherichia coli*: challenge to cAMP model.
- F. Hakuno, D.A. Hughes & M. Yamamoto** The *Schizosaccharomyces pombe mra1* gene, which is required for cell growth and mating, can suppress the mating inefficiency caused by a deficit in the Ras1 activity.
- J.E. Wilhelm & R.D. Vale** A one-hybrid system for detecting RNA-protein interactions.
- L. Richter, J.R. Bone & M.I. Kuroda**
RNA-dependent association of the *Drosophila* maleless protein with the male X chromosome.
-

Vol. 1, No. 4

- K. Ito** The major pathways of protein translocation across membranes. (Review)
- P. M. Comoglio and C. Boccaccio**

The HGF receptor family: unconventional signal transducers for invasive cell growth. (Review)

S. Reichenberger, N. Büll, E. Feldmann, B. Göttlich, W. Vielmetter & P. Pfeiffer

A novel nuclease activity from *Xenopus laevis* releases short oligomers from 5'-ends of double- and single-stranded DNA.

T. Miyagawa, H. Amanuma, A. Kuroiwa & H. Takeda

Specification of posterior midbrain region in zebrafish neuroepithelium.

T. Ikeya, A. Shinohara, S. Sato, S. Tabata & T. Ogawa

Localization of mouse Rad51 and Lim15 proteins on meiotic chromosomes at late stages of prophase I.

J. Kanoh, Y. Watanabe, M. Osugi, Y. Iino & M. Yamamoto *Schizosaccharomyces pombe gad7⁺* encodes a

phosphoprotein with a bZIP domain, which is required for proper G1 arrest and gene expression under nitrogen starvation.

N. Yannoutsos, J.N.M. Ijzermans, C. Harkes, F. Bonthuis, C.-Y. Zhou, D. White, R.L.M. Marquet & F. Grosveld

A membrane cofactor protein transgenic mouse model for the study of discordant xenograft rejection.

Vol. 1, No. 5

M. Ibbá, K.-W. Hong & D. Söll Glutamyl-tRNA synthetase: from genetics to molecular recognition. (Review)

A. Kanamori & D.D. Brown The analysis of complex developmental programs: amphibian metamorphosis. (Review)

E.H. Morita, T. Ohkubo, I. Kuraoka, M. Shirakawa, K. Tanaka & K. Morikawa

Implications of the zinc-finger motif found in the DNA-binding domain of the human XPA protein.

K. Hiom, I.R. Tsaneva & S.C. West

The directionality of RuvAB-mediated branch migration: *in vitro* studies with three-armed junctions.

A.M. Segall & H.A. Nash Architectural flexibility in lambda site-specific recombination: three alternate conformations channel the *attL* site into three distinct pathways.

T. Kobayashi & T. Horiuchi

A yeast gene product, Fob1 protein, required for both replication fork blocking and recombinational hotspot activities.

S. Keeney & N. Kleckner Communication between homologous chromosomes: genetic alterations at a nuclease-hypersensitive site can alter mitotic chromatin structure at that site both in *cis* and in *trans*.

Vol. 1, No. 6

S.J. de Souza, M. Long & W. Gilbert Introns and gene evolution. (Review)

U. Schindler, T. Hoey & S. McKnight Differentiation of T-helper lymphocytes: selective regulation by members of the STAT family of transcription factors. (Review)

M. Kimura & A. Ishihama

Subunit assembly *in vivo* of *Escherichia coli* RNA polymerase: role of the amino-terminal assembly domain of alpha subunit.

O. Resnekov, S. Alper & R. Losick Subcellular localization of proteins governing the proteolytic activation of a developmental transcription factor in *Bacillus subtilis*.

S.B. Steen, L. Gomelsky & D.B. Roth The 12/23 rule is enforced at the cleavage step of V(D)J recombination *in vivo*.

T. Nagata, Y. Suzuki, K. Ueno, H. Kokubo, X. Xu, C.-c. Hui, W. Hara & M. Fukuta

Developmental expression of the *Bombyx Antennapedia* homologue and homeotic changes in the *Nc* mutant.

A. Kato, Y. Sakai, T. Shioda, T. Kondo, M. Nakanishi & Y. Nagai

Initiation of Sendai virus multiplication from transfected cDNA or RNA with negative or positive sense.

W.-P. Ma & R.J. Crouch *Escherichia coli* RNase HI inhibits murine leukemia virus reverse transcription *in vitro* and yeast retrotransposon Tyl transposition *in vivo*.

Vol. 1, No. 7

R.B. Birge, B.S. Knudsen & H. Hanafusa SH2 and SH3-containing adaptor proteins: redundant or independent mediators of intracellular signal transduction? (Review)

Y. Takai, T. Sasaki, H. Shirataki & H. Nakanishi

Rab3A small GTP-binding protein in Ca²⁺-dependent exocytosis. (Review)

Y. Nakaseko, K. Nabesima, K. Kinoshita & M. Yanagida Dissection of fission yeast microtubule associating protein p93^{Dist}: regions implicated in regulated localization and microtubule interaction.

V. Rocco & A. Nicolas Sensing of DNA non-homology lowers the initiation of meiotic recombination in yeast.

O. Hatano, A. Takakusu, M. Nomura & K. Morohashi

Identical origin of adrenal cortex and gonad revealed by expression profiles of Ad4BP/SF-1.

N.L. Harvey, J.A. Trapani, T. Fernandes-Alnemri, G. Litwack, E.S. Alnemri & S. Kumar

Processing of the Nedd2 precursor by ICE-like proteases and granzyme B.

T. Sekiguchi, E. Noguchi, T. Hayashida, T. Nakashima, H. Toyoshima, T. Nishimoto & T. Hunter

D-type cyclin expression is decreased and p21 and p27 CDK inhibitor expression is increased when tsBN462 CCG1/TAFF_{II}250 mutant cells arrest in G1 at the restrictive temperature.

Vol. 1, No. 8

P. Badenhorst, S. Harrison & A. Travers

End of the line? Tramtrack and cell fate determination in *Drosophila*. (Review)

J. Pittard The various strategies within the TyrR regulon of *Escherichia coli* to modulate gene expression. (Review)
H. Chibana & K. Tanaka Analysis of the cell cycle in the budding yeast *Candida albicans* by positioning of chromosomes by fluorescence *in situ* hybridization (FISH) with repetitive sequences.
M. Fujioka, G.L. Yusibova, C.M. Sackerson, S. Tillib, A. Mazo, M. Satake & T. Goto
Runt domain partner proteins enhance DNA binding and transcriptional repression in cultured *Drosophila* cells.
T. Namba & R.H. Scheller Inhibition of agrin-mediated acetylcholine receptor clustering by utrophin C-terminal peptides.
K. Tomita, S. Nakanishi, F. Guillemot & R. Kageyama *Mash1* promotes neuronal differentiation in the retina.
Y. Takahashi, A. Tonegawa, K. Matsumoto, N. Ueno, A. Kuroiwa, M. Noda & A. Nifuji
BMP-4 mediates interacting signals between the neural tube and skin along the dorsal midline.

Vol. 1, No. 9

S. Yokoyama Molecular evolution of retinal and nonretinal opsins. (Review)
D. Watanabe & D.P. Barlow Random and imprinted monoallelic expression. (Review)
K. Mori, T. Kawahara, H. Yoshida, H. Yanagi & T. Yura Signaling from endoplasmic reticulum to nucleus: transcription factor with a basic-leucine zipper motif is required for the unfolded protein-response pathway.
J. Luo, K.A. Sharif, R. Jin, N. Fujita, A. Ishihama & J.S. Krakow Molecular anatomy of the β' subunit of the *E. coli* RNA polymerase: identification of regions involved in polymerase assembly.
N. Higashitani, A. Higashitani, Z.-W. Guan & K. Horiuchi
Recognition mechanisms of the minus-strand origin of phage $\phi 1$ by *Escherichia coli* RNA polymerase.
T. Miyao, K. Yasui, H. Sakurai, M. Yamagishi & A. Ishihama Molecular assembly of RNA polymerase II from the fission yeast *Schizosaccharomyces pombe*: subunit-subunit contact network involving Rpb5.
S. Kojima, M. Mishima, I. Mabuchi & Y. Hotta A single *Drosophila melanogaster* myosin light chain kinase gene produces multiple isoforms whose activities are differently regulated.

Vol. 1, No. 10

S. Nagata Fas-induced apoptosis, and diseases caused by its abnormality. (Review)
P.J. Lewis, T. Magnin & J. Errington
Compartmentalized distribution of the proteins controlling the prespore-specific transcription factor σ^F of *Bacillus subtilis*.
A. Ohtoshi, K. Arai & H. Masai
Genetic interactions between CDC7 and CDC28: growth inhibition of *cdc28-1N* by Cdc7 point mutants.
S. Tanaka & H. Nojima
Nik1: a Nim1-like protein kinase of *S. cerevisiae* interacts with the Cdc28 complex and regulates cell cycle progression.
R. Lin, C.D. Allis & S.J. Elledge
PAT1, an evolutionarily conserved acetyltransferase homolog, is required for multiple steps in the cell cycle.
R. Komuro, T. Sasaki, K. Takaishi, S. Orita & Y. Takai
Involvement of Rho and Rac small G proteins and Rho GDI in Ca^{2+} -dependent exocytosis from PC12 cells.

Vol. 1, No. 11

A. Wegrzyn, G. Wegrzyn, A. Herman & K. Taylor
Protein inheritance: λ plasmid replication perpetuated by the heritable replication complex.
W. Jiang, L. Fang & M. Inouye
Complete growth inhibition of *Escherichia coli* by ribosome trapping with truncated *cspA* mRNA at low temperature.
H. Kimura, T. Ohtomo, M. Yamaguchi, A. Ishi & K. Sugimoto
Mouse MCM proteins: complex formation and transportation to the nucleus.
H. Harada, M. Matsumoto, M. Sato, Y. Kashiwazaki, T. Kimura, M. Kitagawa, T. Yokochi, R.S.-P. Tan, T. Takasugi, Y. Kadokawa, C. Schindler, R.D. Schreiber, S. Noguchi & T. Taniguchi Regulation of IFN- α/β genes; evidence for dual function of the transcription factor complex, ISGF3 in the production and action of IFN- α/β .
Takafumi Maekawa, K. Yanagihara & E. Ohtsubo A cell-free system of Tn3 transposition and transposition immunity.
T. Maekawa, K. Yanagihara & E. Ohtsubo Specific nicking at the 3' ends of the terminal inverted repeat sequences in transposon Tn3 by transposase and an *E. coli* protein ACP.
Y. Suda, I. Matsuo, S. Kuratani & S. Aizawa
Otx1 function overlaps with *Otx2* in development of forebrain and midbrain.

Vol. 1, No. 12

H. Kawase, M. Okuwaki, M. Miyaji, R. Ohba, H. Handa, Y. Ishimi, T. Fujii-Nakata, A. Kikuchi & K. Nagata
NAP-1 is a functional homologue of TAF-1 that is required for replication and transcription of the adenovirus genome in a chromatin-like structure.
K. Maeshima, K. Morimatsu & T. Horii Purification and characterization of Xrad51.1 protein, *Xenopus RAD51* homologue: recombinant XRad51.1 promotes strand exchange reaction.

T. Yokochi, J. Kato & H. Ikeda

DNA nicking by *Escheichia coli* topoisomerase IV with a substitution mutation from tyrosine to histidine at the active site.

M. Suzuki, K. Abe, K. Yoshinaga, M. Obinata, M. Furusawa & K. Abe

Specific arrest of spermatogenesis caused by apoptotic cell death in transgenic mice.

K. Fukushima, S. Motomura, A. Kuraoka, H. Nakano & T. Nishimoto A single point mutation of hamster aminoacyl-tRNA synthetase causes apoptosis by deprivation of cognate amino acid residue.

S. Motomura, K. Fukushima, H. Nishitani, H. Nawata & T. Nishimoto A hamster temperature-sensitive G1 mutant, tsBN250 has a single point mutation in histidyl-tRNA synthetase that inhibits an accumulation of cyclin D1.

Vol. 2, No. 1

K. Mizuuchi Polynucleotidyl transfer reactions in site-specific DNA recombination. (Review)

A. Varshavsky The N-end rule pathway of protein degradation. (Review)

H. Oda, T. Uemura & M. Takeichi Phenotypic analysis of null mutants for DE-cadherin and Armadillo in *Drosophila* ovaries reveals distinct aspects of their functions in cell adhesion and cytoskeletal organization.

Y. Yagi & S. Hayashi Role of the *Drosophila* EGF receptor in determination of the dorsoventral domains of *escargot* expression during primary neurogenesis.

N. Yasuhara, Y. Eguchi, T. Tachibana, N. Imamoto, Y. Yoneda & Y. Tsujimoto

Essential role of active nuclear transport in apoptosis.

T. Nakagawa & H. Ogawa Involvement of the *MRE2* gene of yeast in formation of meiosis-specific double-strand breaks and crossover recombination through RNA splicing.

C. Zou, M.S. Thomas, J. Keen & R.E. Glass A nested set of C-terminal deletions of the α subunit of *Escherichia coli* RNA polymerase define regions concerned with assembly, proteolysis, stabilisation and transcriptional activation *in vivo*.

Vol. 2, No. 2

K. Morohashi The ontogenesis of the steroidogenic tissues. (Review)

M. Yamamoto, S. Takahashi, K. Onodera, Y. Muraosa & J.D. Engel

Upstream and downstream of erythroid transcription factor GATA-1. (Review)

D.G. Anderson, J.J. Churchill & S.C. Kowalczykowski Chi-activation of the 5'→3' exonuclease activity of the RecBCD enzyme: evidence suggesting the RecD subunit is not ejected.

T. Makishima, T. Nakashima, K. Nagata-Kuno, K. Fukushima, H. Iida, M. Sakaguchi, Y. Ikehara, S. Komiya & T. Nishimoto The highly conserved DAD1 protein involved in apoptosis is required for N-linked glycosylation.

F.-Q. Li, K. Takemaru, M. Goto, H. Ueda, H. Handa & S. Hirose

Transcriptional activation through interaction of MBF2 with TFIIA.

A. Yamashita, Y. Watanabe & M. Yamamoto

Microtubule-associated coiled-coil protein Ssm4 is involved in the meiotic development in fission yeast

Vol. 2, No. 3

L. A. Egger, H. Park & M. Inouye Signal transduction via the histidyl-aspartyl phosphorelay. (Review)

P. Lange, M. Victor & B.-J. Benecke

Basal level transcription of the human hsp⁸⁶ gene is directed by intron-based elements.

N. Tanahashi, K. Yokota, J.Y. Ahn, C.H. Chung, T. Fujiwara, E. Takahashi, G.N. DeMartino, C.A. Slaughter, T. Toyonaga, K. Yamamura, N. Shimbara & K. Tanaka

Molecular properties of the proteasome activator PA28 family proteins and γ -interferon regulation.

Y. Shirayoshi, Y. Yuasa, T. Suzuki, K. Sugaya, E. Kawase, T. Ikemura & N. Nakatsuji

Proto-oncogene *int-3*, a mouse *Notch* homologue, is expressed in endothelial cells during early embryogenesis.

B.P. Gupta & V. Rodrigues *atonal* is a proneural gene for a subset of olfactory sense organs in *Drosophila*.

Vol. 2, No. 4

M. Obinata Conditionally immortalized cell lines with differentiated functions established from temperature-sensitive T-antigen transgenic mice. (Review)

T. Yamamoto, D. Poon, P.A. Weil & M. Horikoshi Molecular genetic elucidation of the bipartite structure of the *Schizosaccharomyces pombe* 72kDa TFIID subunit which contains a WD40 structural motif.

Y. Yamaguchi, J. Sawada, M. Yamada, H. Handa & N. Azuma

Autoregulation of Pax6 transcriptional activation by two distinct DNA-binding subdomains of the paired domain.

T. Matsui

Transcriptional regulation of a Purkinje cell-specific gene through a functional interaction between ROR α and RAR.

Y. Jin-no, H. Shirataki, T. Senbonmatsu, T. Yamamoto, Y. Fujita, H. Nakanishi & Y. Takai

A novel function of the C-terminal lipid moieties of Rab3A small G protein implicated in Ca²⁺-development exocytosis: inhibition of interaction with GTP and reduction of this inhibition by phospholipid.

雑誌 GENES TO CELLS 第2巻の 購読のご案内

* 第2巻（1997年）全12号の年間購読の日本分子生物学会会員価格は、8,000円です。

* ご自身やご自分のグループのために購入される場合。

1. 裏面の Category 6 の欄に購入部数、お名前、送付先（英文）を記入し、
2. 下段の PAYMENT DETAILS にクレジットカードで支払うのか、見積書に対して別途支払うのかを明かにして必要事項を記入し、
3. Anna Rivers 宛に FAX するか郵送して下さい。同じ内容を E-mail することもできます。

* 1年間あるいは2年間、皆様と関係の深い世界的にも有力な研究室に寄贈をお願い致します。

- ・雑誌 GENES TO CELLS およびそこに掲載された論文を世界に知らせます。
- ・もし、同一の方に対して複数の申し出がある場合には、出版社により調整され、重複が避けられます。
- ・送付される雑誌には「Dr. . . . の寄贈による」というコメントが付けられます。

この場合には、Category 7 の寄贈先の欄にも記入して Anna Rivers 宛にお送り下さい。

GENES TO CELLS

Order Form - 1997 Subscription

Blackwell
Science

I would like to register subscription(s) to GENES TO CELLS for myself, starting with the January 1997 issue. The special MBSJ price is ¥8000 per subscription.

(Category 6)

Name

Delivery Address

I would also like to register subscription(s) to GENES TO CELLS on behalf of the following persons or institutions, starting with the January 1997 issue. The special MBSJ price is ¥8000 per subscription.

(Category 7)

1. Name

Delivery Address

2. Name

Delivery Address

3. Name

Delivery Address

PAYMENT DETAILS

I therefore attach payment for a total of subscriptions to GENES TO CELLS for 1997 at ¥8000 per subscription.

Unfortunately we are unable to process subscription payments in yen. We will therefore charge you an amount per subscription in sterling which will be equal to or less than ¥8000 at the exchange rate in force on the day that we process your order.

Please debit my American Express / Diners / Eurocard / JCB / Mastercard / VISA
card no: expiry date/.....
Signature date

Please send me an invoice (all subscriptions are payable in advance)

Name

Address

Street / PO Box

Town County.....

Country Telephone

Post/Zipcode e-mail

Please return to:

Anna Rivers, Blackwell Science Ltd, Osney Mead, Oxford OX2 0EL, UK

Tel: +44 1865 206206; Fax: +44 1865 206096

e-mail: anna.rivers@blacksci.co.uk

日本分子生物学会 会報

年3回刊行

第57号 (1997年5月)

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター関西

(財)日本学会事務センター 大阪事務所